

福島県郷土資料情報

No.54 2014.3

編集・発行：福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



『岩代国絵図 白河県』
[明治初期]

目 次

貴重郷土資料探照 17 「明治初年白河・三春両県の国絵図」	1
福島の子童文学者 37	3
雑誌に見る震災関連記事	5
（H23.3.11～25.3.31）	
福島県関係書誌の紹介 2013	21

「明治初年白河・三春両県の国絵図」

明治元年（1868）12月7日、明治政府は陸奥国を磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の5国に、出羽国を羽前・羽後の2国に分国した。2年12月には伊達郡を磐城国から岩代国に、刈田・伊具郡を岩代国から磐城国に再編入した。3年6月、民部省は、府藩県に国絵図調進を命じた。民部省布達は①旧幕府の天保国絵図を改訂することになったので、府藩県に下絵図を交付する。②下絵図は天保国絵図を縮尺して写し取った縮写図である。③一国内に府藩県が錯綜している場合には、府県あるいは大藩が総括する、と指示していた（『法令全書』）。当館はこの布達に関係した手書き彩色の国絵図を所蔵している。

『磐城国絵図 白河県』（354×208cm）

慶応4年（1868）5月戊辰戦争白河口の戦いにより白河藩は崩壊した。明治2年8月高知藩出身の権知事清岡公張が赴任し、白河県は成立した。4年（1871）7月廃藩置県が断行され府藩県三治制から府県二治制となり、11月白河県は二本松県と平県に分割・統合され、廃県となった。

本図は磐城国14郡を描いた国絵図である。14郡は刈田・伊具・亘理3郡（宮城県南部）、宇多・檜葉・磐城・白河など11郡（本県浜通り・中通り南部）である。国内には、角田・三春・磐城平・小見川・湯長谷など12の藩と県が存在していた。白河県の県域は分散しているが、磐前・田村・石川・白河など7郡に跨り、白河県が国絵図調進を総括することになった。3年6月民部省は①②③を通達し、同月白河県は「御達之趣御承知」とする旨の請書を民部省に提出している（『白河県往復文』当館所蔵）。10月には、角田県に民部省布達を通達している（『管下布告全 角田県』宮城県公文書館所蔵）。白河県の国絵図調進は3年6月民部省布達以降、4年11月廃県以前である。



『磐城国絵図 白河県』

図式は河川・湖・海を青色、山野を浅黄色、往還・舟路を朱筋、郡境を黒筋で描く。山岳の稜線は細線で表現され、樹木を描き添える。往還の一里塚は二点对置の小さな黒丸で標示される。郡名は国名併記で長方形、村名は小判形、城名は正方形の枠内に「磐城国白河郡」「磐城国行方郡」「関和久村」「古道村」「白河城阿部能登守」「平之城安藤対馬守」のように記載される。国境の要所には、「此土橋国境岩代国ニ而も同名」「此茂ヶ沢山羽前国ニ而ハ大坂山と云」のような小書（絵図注記）が記載されている。罫紙（絵図余白）の隣国塗分けは岩代・下野・常陸国で認められる。国境に沿って帯状に別色で塗り分けられている。但し、陸前・羽前国では認められない。絵図全体は淡い色調で描かれている。

本図は民部省交付の下絵図（縮写図）、あるいは民部省提出の国絵図を模写した控図、どちらかである。戊辰戦争後の白河県政と社会状況、民部省布達から廃県まで僅に1年余の国絵図調進期間、民部省作成の下絵図『天保度日本分国縮図 磐城』（338×213cm、国立公文書館所蔵）との図像の微細な一致などを考慮すると、本図は白河県に交付された下絵図そのものであったと考えられる。

『岩代国絵図 白河県』(362×208cm) 本図は岩代国9郡を描いた国絵図である。9郡は伊達・信夫・安達・安積・岩瀬5郡(本県中通り、南部を除く)、耶麻・河沼・大沼・会津4郡(本県会津)である。国内には、福島・三池・二本松など11の藩と県が存在していた。若松県は会津4郡と安積郡の一部を県域とし、国絵図調進を総括した。白河県は岩瀬・安積両郡の一部を県域としていた。白河県の県域は磐城・岩代両国に跨り、民部省は磐城国の国絵図調進を総括する白河県に本図も交付したのであろう。図式は『磐城国絵図 白河県』とほぼ同一であるが、畠紙の隣国塗分けを欠いている。

『岩代国全図 三春県』(357×221cm) 新政府軍に恭順した三春藩は本領を安堵され、2年6月版籍奉還により藩主秋田映季が知藩事に就いた。4年1月三春藩は白河県に国絵図を模写するので、「岩代国全図借用希度」ことを依頼している(『明治四年各県ヨリ白河県へ進達書』当館所蔵)。「岩代国全図」が『岩代国絵図 白河県』、それを借用して模写した国絵図が本図である。三春藩は戊辰戦争後一時、安達郡の一部を統治している。三春県は4年7月廃藩置県により成立し、11月平県に統合され廃県となった。三春藩(県)の国絵図模写(本図の作成)は4年1月以降、11月以前である。絵図全体は濃い色づかいで彩色されている。特に山岳は強い山稜線で表現されている。隣国塗分けは国境全周で認められる。



『岩代国全図 三春県』

関連の絵図 磐城国では明治4年『湯長谷藩管轄絵図』(45×33cm)、同年『磐城国磐城磐前田村郡領分絵図』(148×71cm)、同年『小見川県管轄磐城国白川郡六箇村略図』(54×36cm)、同年『泉県支配所磐城国菊多郡二十五ヶ村絵図』(148×136cm)など。岩代国では3年『岩代国絵図』(『岩代国耶麻郡塩川組之絵図』『猪苗代川東組・川西組両組絵図』など、会津4郡の組絵図25枚)を当館は所蔵している。

明治4年7月廃藩置県により二本松・中村・棚倉・刈谷・高田・泉など、10県10分県が成立し、11月10県10分県は平(後、磐前)・二本松(後、福島)・若松の3県に統合された。9年8月には3県が合併して、現在の福島県が成立した。旧若松県は10月に「岩代国絵図」を福島県に移管している(『旧若松県引継目録并演説書』福島県歴史資料館所蔵)。同様に、白河・三春両県の国絵図3鋪も旧福島・磐前両県を経て、福島県に移管されることになったのである。

<参考文献>

- ・丹羽邦男『地租改正法の起源』(151頁、1995年)
 - ・『三春町史3 近代1』(1975年)
 - ・『明治の古地図』(福島県歴史資料館、2002年)
 - ・『白河市史3 通史編3 近代』(2007年)
 - ・拙稿「明治3年6月民部省布達と白河県の国絵図」(『郡山女子大学紀要』第49集、2013年)
- (郡山女子大学短期大学部准教授：阿部 俊夫)

生源寺 美子（しょうげんじ はるこ）（1914— ）

戦後の日本児童文学界の発展を支えてきた女性作家の一人、生源寺美子氏は、今年1月で百歳を迎えられた。50歳頃から本格的に創作活動をはじめ、幼年から思春期の子どもたちのために100点を超える作品を発表している。ここでは、ふるさと福島に関わる作品を中心に紹介する。

【プロフィール】

1914（大正3）年、柏木三郎夫妻のもとに五人姉妹の末っ子として生まれる。出生地は奈良県。1歳になる前に、両親の郷里である福島県に移る。師範学校の校長等を歴任し教育界で活躍した父親の転勤で、幼少期を東北や関西地方で過ごし、さらに、朝鮮（現・韓国）に渡り、京城公立第一高女、大邱公立高女での女学生時代をへて、日本に戻り、東京自由学園高等部（旧制）を卒業する。

【主婦から童話作家へ】

幼少期から書くことに興味を持ち、本好きだったという。戦前戦後の10数年は主婦業に専念していたが、子育てが一段落した頃から、家事の傍ら童話を書き始める。1955（昭和30）年頃に『婦人朝日』（朝日新聞社発行）という雑誌の「私の童話欄」に投稿し何度も入選を果たす。当時、その童話欄の選者だった詩人で児童文学者の与田準一氏の指導をうけ、同じ入選仲間の岩崎京子らと「童話の会」を結成、同人誌「童話」を作り創作に励む。1960（昭和35）年には、同会初の童話集「茶の間のしゃぼん玉」（カワイ楽譜）を発刊。あとがきに、生源寺氏自身が「家庭の仕事のあいまいに、胸におさめかねたなにかをひとりかきつづっていた。子どもを持つ母親であれば自然に童話の形をとっていた」と述べているように、それぞれの作品は、日常生活のひとこまが描かれており、そのまなざしは母親として、子どもたちへの愛情にあふれるものであった。

また、この「童話の会」で一緒だった中沢笑子氏が、福島県郡山市で「クローバー子供図書館」を開設（1952（昭和27）年）し、全国に先駆けて家庭文庫活動をしていた金森好子氏の叔父と知り合いだった縁で、会のメンバーが「クローバー子供新聞」（同館発行）に童話を寄稿している。生源寺氏も「しもやけうります」というユーモラスな作品を発表しており、それらの作品は、1966（昭和41）年に『まつりの子』（クローバー詩文集5）として編集され発行されている。



1965（昭和40）年には、「春をよぶ夢」という少女の成長を描いた作品で、第6回講談社児童文学新人賞を受賞する。後に『草の芽は青い』（講談社刊）として出版され、翌年、第13回産経児童出版文化賞も受賞している。この作品で作家への第一歩と踏み出したと言われ、その後、意欲的に創作活動に取り組み、歴史、伝記、翻訳のジャンルまで幅を広げ、次々に作品を発表する。

【ふるさと福島—児童文学の拠点】

生源寺氏は、1994（平成6）年に、『文化福島』（福島文化センター編、10月号）の「私のふるさと」欄に、長沼町（現・須賀川市長沼町）について次のように語っている。

「父母も祖父母も根っからの福島っ子で山深い勢至堂には先祖代々の墓がひっそりとしげまっている。私は父の仕事の関係で日本各地を転々として育ちましたが、学齢前後4年余り棲みついた郡山市郊外の生活が未だに記憶鮮やかで、なつかしい思い出がつぎつぎに浮かんでまいります。育ちざかり、遊び

さかりに田んぼや小川に囲まれてたっぷり自然めぐみに浸ることのできたあのころ！あのころこそ、私にとって何ものにも替えがたい貴重な倖なときだったと思います」そして、さらに、前述の『草の芽は青い』は「郡山での幼児の生活を軸として書き上げたもので、それはその後の数々の作品の背景にもたびたび登場し、自分の児童文学の拠点である」と述べている。その代表的なものとして次の作品がある。



『雪ぼっこ物語』（童心社）1977（昭和 52）年

福島県の雪深い貧しい山村に生まれた少女が、ひたむきに生き抜いて、こけしづくりの女工人になるまでの生涯を描いた作品。作者自身が語り手の立場をとり、幼少期少期の生活体験やこけしに関する様々な調査資料を生かして書かれている。

第 15 回野間児童文芸賞を受賞した長編力作。



『やさしく川は流れて』（ポプラ社）1992（平成 4）年

『きらめいて川は流れる』（ポプラ社）1993（平成 5）年

『そして今日も川は流れる』（ポプラ社）1996（平成 8）年

自伝三部作といわれている。作者が幼・少女期を過ごした、福島や、秋田、京都を舞台にしている。人の一生を川

にたとえ、家族の生活を船になぞられ、関わっている人々の様々な人間模様を丁寧に描いた作品。

2 部目は、青少年読書感想文全国コンクール（主催・全国学校図書館協議会）の課題図書となった。

【子どもたちへ「生きる力」を】

生源寺氏は「人間を描く作家」として高い評価を得ている。特に思春期前後の少年少女心理をよく捉えての心のひだを描くことに巧みな独特の作風を持っているといわれている。主人公は、どんなに厳しい現実にも退くことなく、常に真実に立ち向かって逞しく成長していく。そのひたむきで人間味あふれる生き様を丁寧に描き、子どもたちへ、「生きる力」を、生き抜いた先にある喜びや幸せを伝えようしている。そこには、童話を書き始めた頃から変わらない母親「いつの時代も子どもの未来が希望に満ちていること」を願う思いと暖かいまなざしを感じる。

「小さな 草の芽、
力いっぱい伸びようとする草の芽
草の芽は 青い、
草の芽は つよい、
あなたたちこどものように。」 『草の芽は青い』より

■参考文献

- ・「つねに新鮮な作家－生源寺美子さんについて－」『日本児童文学』（児童文学者協会）1981
- ・『日本児童文学大事典』（大阪国際児童文学館 編・発行）1993
- ・『現代日本児童文学作家事典』日本児童文学臨時増刊号（日本児童文学協会 編・発行）ほか
〈 児童資料チーム 大崎眞希子 〉

雑誌に見る震災関連記事 H23.3.11～H25.3.31発行分

当館では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う福島県内の被災・復興に関する資料を、特に重要な資料ととらえ、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」として、収集と提供に取り組んでおります。

復興ライブラリーでは、通常定期購読していない雑誌の中で、震災関連の記事が掲載されている号を購入しました。本稿は、収集した雑誌の記事の中から、東日本大震災に関するもの、原発事故とそれともなう放射線に関する記事の中から、特に福島県に関わる記事を中心に採録し、一覧にまとめました。

凡例

- ・平成23年3月11日から平成25年3月31日までに発行された号から集録しています。
- ・東日本大震災および福島第一原子力発電所事故、放射線等に関する記事の内、主に福島県に関係する記事であると採録者が判断した記事を収録しています。
- ・記事は雑誌名の五十音順に巻号、特集記事名、記事名、掲載ページを掲載しています。

【寄贈のお願い】

- ・東日本大震災関連の写真集・記録集等
- ・被災に関する調査報告書、復興に関する計画書・報告書、自治体発行広報誌の震災特別号等
- ・被災地及び県内外の避難先で発行されたミニコミ誌・フリーペーパー等
- ・個人が発行した手記、詩集等（自費出版物も含みます）
- ・東日本大震災関連記事が掲載されている雑誌（例えば、「女性セブン」等の当館未所蔵の雑誌）

これらの資料を所有されている方は、ご寄贈いただけませんか。
可能でしたら、2部（保存用・貸出用）お願いいたします。

※寄贈の方法は持参いただくか、下記宛てにお送りください。なお、ご寄贈いただきました資料の取り扱い、お任せいただきますようお願いいたします。

【お問い合わせ】 〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
福島県立図書館 資料情報サービス部 地域資料チーム

【 震災関連雑誌記事 】

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
アジェンダ [アジェンダ・プロジェクト]	第33号(2011年夏号)	特集今こそ脱原発!	4-55
		コラム 3.11	1
		原発震災 何が起きたか	6-15
		原子力防災追及は脱原発の力になるか	16-23
		チェルノブイリのヒバクシャ支援の経験から福島第一原発事故を考える	24-31
		書評 『生き残れない「原子力防災計画」』	55
		放射能の被害者にも加害者にもなりたくない(2)	56-63
		レポート 「福島原発事故報道を検証する」シンポジウム	64-67
	連載 時代の曲がり角で 第21回 福島第一原発事故に際して	68-71	
	第34号(2011年秋号)	特集 これからのエネルギーⅡ	14-83
		レポート 7・31福島県民集会&原水爆禁止世界大会in福島	73
		インタビュー 菅野正寿さん「福島・二本松市で里山再生復興プロジェクト」	74-77
		インタビュー 佐々木慶子さん「福島市で『さよなら原発パレード』」	78-81
		書評 『脱原発社会を創る30人の提言』	82-83
		食をゆたかに ピンチはチャンス!(10)	93
	第35号(2011年冬号)	特集大震災・原発事故をどう乗り越えるか	16-89
		インタビュー 大震災・原発事故を乗り越える ―自治体の復興計画―	18-33
		復興政策、復興増税をどう見るか	34-43
		東京電力の原発事故による損害賠償の問題点	44-51
		大震災と原発事故によって生じた核のごみ問題について	52-59
レポート 被ばく労働に関する関係省庁交渉		60-61	
レポート 「避難の権利」の確立を求めて		62-63	
レポート 震災と障害者「フクシマからの報告」		64-67	
レポート 巨大災害にどう立ち向かうか 京大防災研究所公開講座		86-88	
連載 時代の曲がり角で 第23回 原発事故を乗り越えるために		94-97	
第37号(2012年夏号)	特集全原発廃炉化への道	4-43	
	グラビア 地下300m以深の研究 「核のごみ」は地層処分できるか	巻頭	
	脱原発までのエネルギー戦略	6-16	
	原子カムラの資金源を断つことで脱原発の実現を	18-25	
	福島第一原発の現状とこれからの課題	26-33	
	解説 迫られる放射性廃棄物処分	34-41	
atプラス 思想と活動 [太田出版]	09(2011.8)	特集 震災・原発と新たな社会運動	5-117
		シンポジウム 震災・原発と新たな社会運動	6-48
		確率論的主体性と放射能の抵抗線 諸器官のエス的なアソシエーションに向けて	79-91
		アメリカ合衆国と切り捨てられる弱者たち 高レベル放射性廃棄物の処分問題をめぐって	92-105
		吉本隆明と「文学者の原発責任」八十年代から3.11以降へ	106-117
インパクション [インパクト出版会]	180(2011)	特集震災を克服し原発に抗う	13-179
		原発事故後の農業はどうなるか 福島現地から	14-31
		三春の桜を見ながら、原発事故を考える	32-35
		FUKUSHIMAから 3.11原発/解雇/放射能/そして……	36-40
		反原発裁判の30年	46-67
		原発推進体制がもたらしたものは何か	68-74
		内部被曝と植民地主義 福島とアメリカ	76-81
		福島事故を踏まえて今後どうするか 全国各地の運動団体から	86-89
		労働者を殺す原子力産業 「フクシマ50」の真実	90-100
		チェルノブイリから二五年 ドイツ・インドにおけるフクシマの教訓	102-109
		難しいことはわからないけど、母は強い? 「産むのが怖い」この時代に	110-115
		水に落ちた四匹の犬	138-149
		ヒロシマとフクシマのあいだ	150-163
		181(2011)	特集脱原発へ その軌跡と再生への道
	脱原発と「母」「女」について考える 生きのびるための新しい関係を		14-36
	福島から遠くはなれて 先に避難した人間が受け入れ先を作る		46-55
	運動を歴史的に振り返る 原子力資料情報室とのかかわり		62-73
	183(2012)	反(脱)原発運動の現代的課題 再稼働反対アクションに向けて	82-107
		特集今ここにある危機(ファシズム)、あるいは好機	18-140
		現地で考える除染と避難	58-75
		原発震災アフォーリズム ツイッターとデモで脱原発!	85-101
		アート・アクティヴィズム 65 「放射能に色がついていないからいいのかもしれない…と深い溜息…をつく…」 ―イトー・タリに聞く	168-174
		論考 内部から見た「原子カムラ」の論理と破綻	175-184
	184(2012)	女たちは座りこむ 原発なしで暮らしたい	213-214
		特集 3.11原発震災 以後を生きる	55-123
		これ以上、奪われない、分断されない 福島を出たあの夜から一年	56-61
		福島とつながり続ける	62-65
		『勉強会』と『デモ』の間の厚い壁 岩手における脱原発への関心の高まりと生産者の沈黙	66-68
「とにかく誰か、声をかけてほしい」 障害者と呼ばれる人々と地域		76-79	
たくさんの語りにも耳を傾けながら	80-83		
再稼働阻止から原発廃絶へ	84-88		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
インパクション	184(2012)	混乱と渾沌のあとに 脱原発への展望のために	89-98
		「無責任の体系」=「折り共同体」の外へ 〈3・11原発震災〉一周年の日に	99-112
		ブック 平易な言葉で紡がれた豊かな思考と洞察と実践の「森」『福島からあなたへ』(武藤類子著 写真・森住卓)	161-163
		ブック 東電福島第一原発事故から一年 最近の原発関連本を読む	166-168
	185(2012)	福島の地から東電原発事故の責任者を告発する	242-243
	186(2012)	シネマ「311」(森達也・綿井健陽・松林要樹・安岡卓治共同監督)	182-183
		ブック 見えない「放射能の跡」を映し出す『フクシマ元年』(豊田直巳著)	185-186
	187(2012)	特集政治の腐壊・運動の可能性	16-94
		日本原子力学会誌にみる原子カラムの論理	44-55
		切り売りされる命 原発被曝労働	56-72
福島原発震災は「収束」などしていない 反原発運動の歴史と現在		74-94	
論考 内部から見た「原子カラム」の論理と破綻		175-184	
女たちは座りこむ 原発なしで暮らしたい		213-214	
en-taxi [扶桑社]	Vol.32 (2011Spring)	緊急大特集 作家たちの東日本大震災 「—43人の3月11日14時46分とこれから	1-59
		アンケート 作家たちの「あの時」と「今、思うこと」	28-40
		迷い人のごとく—仙台／神戸／福島	41-43
おそい・はやい・ひくい・たかい [ジャパนมシニスト社]	No.62(2011.7)	特集1 放射能汚染のなかで大人にできる、これからのこと	6-59
		出口なし。身の丈の力で生きなおす	8-11
		いま、それに挑戦しなければならなかった @Ryoko_is ツイッターより	13-16
		共通の教訓 急停止した原発のその後	18-21
		〈読者の声〉 いろいろな地域から 1	22-23
		人命が一番 「ふるさと納税」で原点に立ち返る	24-27
		被災地からの声	38-39
		地産地消のエネルギー 鉱物資源に乏しくても	40-43
		危惧 恐ろしさだけを強調する思考法	49-52
		特集Iのおわりに 見えてくるのは、差別のこと	56-59
	No.63(2011.9)	特集I 災害、事件、事故…… 学校で非常時!! 子どもを守れるか!? そのとき、私たちは……。 教員・養護教員・親の立場から	6-51 17-30
	No.64(2011.11)	給食、校庭、通学路も汚染…放射能のリスクをおさえたい	6-53
〈読者の声1〉 ここが、心配! 学校編		9-11	
3.11以前には戻れない現実を見すえて…… いま、学校や大人がすべきこと		12-21	
〈子どもの声〉 放射能は見えなくて困る		22	
原発事故が起こって “育ち”をめぐる5つの課題		23-43	
その1 学校給食 食材選びで大切なこと		23-27	
その2 外遊び 屋内遊びをせざるをえないなかで		28-31	
その3 除染 「避難」か「とどまるか」を選択できる条件づくりを		32-35	
その4 子どもたちに伝えるとき 一方的な情報をうのみにしないこと		36-39	
その5 いじめ・差別 福島をめぐって起こっていること		40-43	
〈読者の声2〉 放射能対策、学校にいたい!	44-46		
特集Iのおわりに みんなでやるしかない 大人にできることはある。時間はない。いますぐに動き出さなくては。	47-53		
解放教育 [明治図書出版]	2011.8月号, 第41巻第8号 No.525	特集 震災と教育—東日本大震災が提起する教育課題	7-84
		第1部 東日本大震災をめぐる教育の現実と課題	10-49
		原発震災と学校現場の混乱	10-21
		子どもの人権を守れ! 市民社会が問われているもの	23-31
		第2部 阪神・淡路大震災へのとどろきから学ぶ	39-84
		沖縄散歩 21 福島で起こったこと、沖縄で起こりうること	85-86
環【歴史・環境・文明】 [藤原書店]	Vol.46 2011Summer	【特集】 東日本大震災	42-291
		〈鼎談〉「東北」から世界を変える—「自治」に根ざした「復興」への道—	48-60
		被災地／被災者の「声なき声」 1 被災地、石巻から	70-119
		三〇〇万年間に何千回も起きた超巨大地震 [海洋国家として生きる道]	122-131
		歴史が語る日本の津波災害 [過去の教訓をどう活かすか]	132-140
		防災対策から「減災」政策へ [フィクションとしてのリスク評価を超えて]	150-157
		子守唄で勇気を新たに [被災地に唄と物資を届ける]	216-229
		歴史的転回点としての福島原発事故	236-249
		事態の進展 [福島原発事故から三ヶ月レポート]	250-259
		現場から乖離した「原発の安全神話」[元原発技術者・設計者の証言]	260-273
		福島原発事故を招いた独善的体制 [政・官・財・学・メディアの癒着]	274-282
		東電賠償問題と電力政策の転換 [発送電分離を視野に]	283-291
	Vol.47 2011Autumn	【特集】 原発と放射能除染 東日本大震災 2	52-212
		総力戦で除染をはじめよう 放射能除染・回復プロジェクト	56-71
		インタビュー 放射能による健康被害	72-79
		インタビュー 事故状態が今も続いている福島原発 「安全」と「危険」をどう見極めるか	80-91
		日本の原子力開発利用史における福島原発事故の意味	92-112
		真に有効な原子力安全規制政策とは	114-128
		原発存続の社会的闘争の現局面 主にストレステスト実施の動きをめぐって	134-142
		土と生きる	151-163
vol.48 2012Winter	【特集】 エネルギー・放射能 東日本大震災 3	80-307	
	〈対談〉 東北・被災地をめぐって—復興を支える家族構造と地域社会—	142-149	

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
環【歴史・環境・文明】	vol.48 2012Winter	家畜をめぐる断章 [原発震災の陰で]	152-169
		放射能廃棄物の最終処分場はどこ? [脱原発でも不可避の最大の難題]	170-178
		20キロ圏内にて	179-191
		〈鼎談〉 原発即時停止は可能かつ必要である [戦後日米核同盟の転換]	192-222
			原発事故の真実は伝えられたのか? [「なぜ」という問いの封印とメディアの死]
	Vol.49 2012Spring	[特集] 3・11と私—東日本大震災で考えたこと 総勢一〇六名の多様な執筆陣!	34-245
	Vol.50 2012Summer	〈「後藤新平の会」シンポジウム〉 東日本大震災と後藤新平 放射能除染と地域再生 1 地域循環型除染システムを構築する [土を剥がない、高圧洗浄をしない]	44-104 282-297
	vol.51 2012Autumn	3・11と5・1 [原田先生と水俣学]口 放射能除染と地域再生 2 除染は、「雑草」と「泡洗浄」に任せればよい [土は大量に剥がない、高圧除染をしない]	62-64 296-323
季刊現代の理論 [明石書店]	Volume.28 (2011夏)	総特集 3.11は何を問うか	1-177
	Volume.29 (2011秋)	特集 脱原発へ日本の針路	1-121
季刊地域 むら・まちづくり総合誌 [農山漁村文化協会]	No.06 (2011SUMMER)	特集大震災・原発災害 東北はあきらめない!	6-101
		図解 原発災害と津波被害	6-7
		私はあきらめない [飯館村長 菅野典雄 一日でも早く明るい村に戻るように]	8-9
		I 原発災害に立ち向かう	12-31
		「までい」の村は負けない 怒りと決意の飯館村	14-19
		直売所とともにふるさとも農業もあきらめない JAすかがわ岩瀬「はたけんぼ」	20-25
		風評被害とどうたたかう 公開自主検査で“見えない不安”を吹きとばせ みずほの村市場	26-30
		チェルノブイリ原発事故の教訓を農地除染に生かす	31
		II 大震災を生き抜いて	32-59
		「藤沼貯水池」決壊の衝撃 “陸の津波”からどう立ち上がる 福島県須賀川市	52-55
	III むらとまち、地域と世界を結び直す	60-101	
	南相馬を原発克服の世界的拠点に [南相馬市長 桜井勝延]	68-69	
	人口5200人の小さなむらが被災者980人を受け入れ 支援からむらづくりへ「片品むらんていあ」	90-93	
だれでもできる復興支援	98-101		
むらのヨメさん不心得帖 第5話 FUKUSHIMAとMINAMATA	112-113		
No.07 (2011AUTUMN)	特集いまこそ農村力発電	6-81	
	続 東北はあきらめない	82-105	
	その後の飯館村	84-86	
	セシウム汚染緩和に泥の性質を生かせ 飯館村で考える 南相馬の人たちがきっかけをくれた 群馬県片品村	87-89 94-97	
No.8 (2012WINTER)	震災・原発・TPP ショック・ドクトリンを許さない	69-95	
	美しいふくしまをとりもどすために希望の種をまく 再生に歩み出した「ゆうきの里」福島県二本松市	70-73	
	福島の農家に学ぶ 耕すことで農地を生かす道が見えてきた	74-75	
	里山林クリーンアップ作戦 堆肥づくりを続けるために、汚染された落ち葉を一斉清掃	76-77	
	母子を守ること、農家・漁家を支えることをどう両立させるか 飯館村だより 仮設住宅で和服リフォーム	78-79 88	
No.9 (2012SPRING)	かーちゃんのカ・プロジェクト 田畑は失っても「フクシマの味」はあきらめない 「帰村宣言」川内村の今 よしたかさんの米 しげるさんの蕎麦	98-101 102-105	
	原発再稼働 私たちは許さない	96-113	
No.10 (2012SUMMER)	飯館村の一人の青年として村のためにできること	96-99	
	脱原発は福島の世界史的使命と思う	100-103	
	限界集落と原発避難に通じるもの 富岡町の人々とともに復興を考える	106-109	
	原発事故20km圏内の牛たちのいのち 農高新聞 福島県立福島明成高等学校	110-113 120	
No.11 (2012AUTUMN)	誰にも責められていないが、みんなに責められている気持ち セシウム汚染ワラを牛に与えて	100-105	
	生きる権利として農産加工へ 三春町の女性たち	106-107	
季刊まちづくり [学芸出版社]	31 (201107)	対談 震災復興への対応策を論ずる	4-12
	32 (201110)	特集東日本大震災復興まちづくりシナリオの提案 市民事業の展開に向けて	4-108
		2地域復興まちづくりセンターを構築する[二本松市・浪江町]	40-41
		風土に着目した生業復興と居住地再編[相馬市]	54-57
		東日本大震災被災都市・都市計画カタログ 福島県 双葉・大熊	108
日本のスギで東北の震災復興をはかれ 木造復興仮設住宅支援の取り組み	112-115		
33 (201201)	現地レポート 東日本大震災復興まちづくりの現状を考える	16-37	
論壇 震災「復興政策」の構造と論点	4-15		
福島の声を全国に	20-23		
地元主体のまちづくりは進むのだろうか?(いわき市)	24-28		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
季刊まちづくり	33 (201201)	記者の目で見たまちづくり(1) 街づくりとしての原子力発電所誘致	79-85
	34 (201204)	特集復興まちづくりのフレームワーク	4-101
		復興のビジョン、そして基盤復興計画から見えてきた課題	4-9
		Part1 浪江町の復興ビジョン 原子力発電所事故災害からの地域再生試論 Part3 復興計画の論点と課題 漁村復興計画の課題	10-17 60-66
35 (201207)	震災レポート 復興まちづくりの試みと課題口 東日本大震災における復興住宅(地域型自立再建住宅)の取り組み状況	88-102 88-95	
季論 21 【『季論21』編集委員会】	第12号(2011年春)	レポート 東日本大震災、福島第一原発に行く	16-25
	第13号(2011年夏)	<特集1>検証・東日本大震災/福島原発事故	17-108
		グラビア 超巨大地震・津波の爪痕	4-10
		グラビア 閉ざされた春—福島2011	11-16
		3・11と9・11の衝撃—問われる近代の工業文明	18-29
		[対談]東電3.11原発事故が問うもの	30-48
		核エネルギーの悪用・誤用と科学者の責任	49-60
		漂流物は凶器となって—巨大津波の実態、復興への目 うつくしまがFUKUSHIMAになった日	73-82 95-101
	第14号(2011年秋)	<特集1>3・11からの日々	31-103
		福島原発事故の原因と放射線被爆を考える	44-55
原発事故はすべてのものを奪った 原発で問われるジャーナリズム		56-65 77-85	
第15号(2012年冬)	<特集1>脱原発・持続可能社会へ	43-118	
	惨禍の福島に何をみるか	60-69	
	インタビュー 民主主義の再生、人間の復興を 佐藤栄佐久	70-82	
	過酷事故へと至った軽水炉技術の歴史	83-95	
	生きとし生けるものすべてを思いやって 原発銀座・若狭で脱原発を訴えて40年 「基準値」の正当性を問う 問われる放射線防護体系「内部被爆研究会」発足によせて	96-105 206-216 217-222	
第16号(2012年春)	<特集1>3・11東日本大震災から1年	21-64	
	巻頭言 「3.11」大災害と政治の破局	13-16	
	福島原発事故から1年—何が進み、どこに問題があるのか	36-48	
	存在しない神に祈る—フクシマ3.11の日に	49-58	
	それぞれの3.11	59-64	
クレスコ:教育誌 【大月書店】	124(2011.7)	東日本大震災学校・教育は今	11-42
		渡辺治の政治学入門13 原発の政治学	4-5
		被災地から 福島・高校 原発事故による不安と恐怖の中で	28-30
		被災地から 福島・保護者 失われた故郷	31
		原子力教育①「原発は有用」と言い続けてきた文部科学省の責任	32-33
		避難児童の受け入れ 福島から避難してきた子どもたちを受け入れた学校として	35-36
		ケアと支援 子どもたちの育つ力に寄り添って	37-38
		この映画見ましたか? フラガールDVD	48
		激流:流通情報誌 【国際商業出版】	2011.5月号, 第36巻 第5号 通巻423号
2011.6月号, 第36巻 第6号 通巻424号	特集 震災が変える流通構造		9-94
建築技術 【建築技術】	2011.9月号, No.740	特集 東日本大震災における建築物の被害報告 Part1 東北	91-171
	2011.10月号, No.741	特集 東日本大震災における建築物の被害報告 Part2	91-173
	2012.4月号, No.747	福島第一原子力発電所1号機 原子炉建屋カバー工事の取組み その1 構造計画および施工計画	46-53
		東日本大震災と防煙垂れ壁 震度4クラスまではほぼ異常なしと想定していたが!	172-175
2012.5月号, No.748	特集 実務に役立つ耐震補強のワンポイント	95-185	
	福島第一原子力発電所1号機 原子炉建屋カバー工事の取組み その2 準備工事とガレキ撤去工事	186-191	
SIGHT 【ロッキング・オン】	Vol.48, 2011 Summer	総力特集 自民・東電・メディアが作った原発日本	12-107
		スリーマイルから福島まで原発推進行政と戦い続けた30年、そして今。	16-33
		3・11以降、「日本の原発絵図」と「世界の原発絵図」はどう変わりつつあるのか	34-49
		3・11以降の「今ここにある、そして加速度的に悪化していく危機」を語る。「我々は、今、大本営発表の時代と同じ世界にいる」	50-67
		原発推進政策の中、自然エネルギーはいかに排斥されてきたのか	68-83
	Vol.49, 2011 Autumn	総論対談 「福島第一原発事故後の日本の『脱・原発路線』は、ワシントンのご意向であ	84-107
		総力特集 私たちは、原発を止めるには日本を変えなければならないと思っています。	12-139
		政治と原発	16-31
		官僚と原発	32-47
		アカデミズムと原発	48-61

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
SIGHT	Vol.49, 2011 Autumn	地元フクシマと原発	62-77
		司法と原発	78-93
		企業と原発	94-111
		メディアと原発	112-125
		日本人と原発	126-139
	Vol.50, 2012 Winter	総力特集 原発報道を終わらせようとしているのは誰だ	12-145
		なぜ「当事者」以外は誰も、原発被害に対して適切な手を打たないのか、打てないのか	16-27
		なぜ国は、福島を事実上見捨てているのか	28-43
		なぜ行政は、放射線量を測ってデータ化しないのか	44-59
		政府・東電はなぜ、事故の原因を「地震ではなく津波」と限定するのか	60-75
		なぜ、日本では正しいリスク管理が機能しないのか	76-89
		放射能は測れない、報道はしない、現実には知らせないー 行政と東電とメディアは、なぜこれだけのことが起きても変わらないのか	90-103
		なぜ日本のメディアは、「こんな事態を経ても」正しい報道ができないのか	104-119
	Vol.51, 2012 Spring	総力特集 3・11から1年。この国ではなぜ誰も罰せられないのか	12-117
		なぜ東海村だけが「脱原発」に踏み切れたのか	16-27
		「東電に責任追及できない国民」の裏には何があるのか	28-41
		既存政党はなぜ「脱原発」を政治的イシューにできないのか	42-57
		東電、政府、保安院、御用学者ー この国ではなぜ「大権力であれば責任を取らなくてよい」ことになっているのか	58-71
		なぜ日本のメディアは「報道の責任」を問われないのか	72-87
		東電の「企業としての刑事責任」は、なぜ問われないのか	88-103
		「権力は罰せられない国」日本は異常なのか	104-117
	Vol.52, 2012 Summer	総力特集 食べられないのか？ 住めないのか？ 一語られない内部被曝と除染の「本当」	12-109
		「住める住めないは自分で決めるしかない」という事実、我々はどう向き合えばよいのか	16-29
		今、福島で暮らす人々の間に、どんな問題があるのか	30-43
日本の海洋汚染の本当は、どうなっているのか		44-55	
小児科医は「福島の放射線被害」をどう見ているのか		56-67	
内部被曝は防げるのか、下げられるのか		68-81	
究極的には、除染は可能なのか、不可能なのか		82-95	
科学はこの現状に対して明確な説明をできるのか		96-109	
Vol.53, 2012 Autumn	総力特集 選挙で原発を止める	12-109	
	脱原発には、日本の統治構造を変えなければならない	16-27	
	既存政党が掲げ始めた「原発ゼロ」は、どこまで嘘なのか？	28-41	
	1970年代に作られた原発はすべて廃炉にするべき	42-53	
	脱原発で選挙に勝てるのは、原発のない町だけだ	54-67	
	国会事故調はなぜ「この原発事故は人災である」と断言できたのか	68-81	
自然と人間 [自然と人間社]	2011.4月号, vol.178	東北地方太平洋沖地震発生 津波の猛威、原発崩壊…	
		戦慄!巨大地震津波と「原発震災」	2-4
		原発崩壊事故避難私記 秋山豊寛	8-9
		特捜検察に抹殺された福島県知事 語り手 佐藤栄佐久	13-17
	2011.5月号, vol.179	「原発震災」収束せず!	
		原発震災—政官業学+マスコミ「安全神話」をつくり上げた“原子カムラ”	2-6
		地震・津波、そして放射能に苦しむ震災地 兵糧攻めの中での籠城生活 いまだに希望が見いだせない [南相馬市]	7-9
		乗務中だった運転士が証言「津波で電車が流されるのを見送った」 [新地駅]	10-11
		農のある暮らしから 103 “ゴジラ”にはなりたくない 秋山豊寛	12-13
		Hキョージュの環境ゼミ 第2回 3.11を超えて	14-17
	大谷昭宏の言いたい放題 人類の英知を結集して原発の安定を	37-39	
	2011.6月号, vol.180	「原発難民」を生み出したもの	
		放射能汚染で全村避難を迫られた飯館村 復興の原点は故郷への想い、家族への想い	2-4
		原発でとんでもない地域になった南相馬市 人間の扱うしろものではない原発	5-7
		原発の爆発ですべてを失った 自分の店も村も駄目だべしさ	8-9
		いつまで続く「原発難民」の苦悩	10-13
		なぜ浜岡原発の全原子炉停止なのか	14-17
	Hキョージュの環境ゼミ 第3回 原発はどこに行く?	26-29	
	農のある暮らしから 104 避難先で田圃を借ります 秋山豊寛	38-39	
	2011.7月号, vol.181	マスコミは福島原発「事件」情報隠蔽の共犯 今こそ記者クラブ解体を	14-17
原発の下請け(協力会社)作業員はまるで奴隷		20-23	
Hキョージュの環境ゼミ 第4回 原発と温暖化		26-29	
農のある暮らしから 105 国際的利権集団とつながる「原子力村」 秋山豊寛		38-39	
2011.8月号, vol.182	「原発震災」の責任		
	「原発を許してきた日本人すべてに責任がある」闘い続ける反骨の原子力学者・小出裕章さん	2-5	
	生まれ育った地にもう帰れない 原発立地の双葉町民としての発言	10-11	
	原発事故—労働組合は何をしているのか?	12-14	
	投稿「原発震災」にひと言	29	
農のある暮らしから 106 モスクワの病院で「検査」を受ける 秋山豊寛	38-39		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
自然と人間	2011.9月号, vol.183	子どもたちを放射能汚染から守れ	
		「反原発」のエネルギーは自身への後悔 「国は子どもたちをサテライト疎開させるべき」	10-11
		全頭検査でも農民の困惑は消えず ―自責を問うベゴ飼いたち	12-15
		ヒューマンエラーを処罰すれば、社会は安全になるのか 二つの報告書にみる事故調査と刑事捜査の課題	24-25
		Hキョージュの環境ゼミ 第6回 「脱原発依存社会」は一步後退、二歩前進? 農のある暮らしから 107 「フクシマ」の子どもたちの疎開を 秋山豊寛	26-29 38-39
	2011.10月号, vol.184	原発はいらない!	
		避難するもしないも自己責任 「ホットスポット」で下駄を預けられた住民	2-5
		放射能から子どもの命と健康を守る	6-10
		Hキョージュの環境ゼミ 第7回 野田内閣登場とエネルギー政策の行方 農のある暮らしから 108 状況の深刻さが次々と見えてくる 秋山豊寛	26-31 38-39
	2011.11月号, vol.185	放射能汚染と闘う!	
		飯館村・南相馬市ルポ 福島に生きる人々の苦悩と覚悟	2-5
		反骨の老報道写真家・福島菊次郎さんの見たフクシマ 「ヒロシマの嘘」は「フクシマの嘘」に重なっているか見届けたい	6-9
		酒販雑感 腑に落ちぬ日本のセシウム安全基準値 農のある暮らしから 109 「筍屋」の修行を考える 秋山豊寛	30-31 38-39
	2012.2月号, vol.188	広島・長崎の被爆者が遭遇した福島原発事故	6-9
		原発のゴミを埋めてはいけない 岐阜県地の層処分研究の危険な現実	10-13
		日本は原子力国家だった 佐藤栄佐久	14-15
		Hキョージュの環境ゼミ 第11回 新たな旅立ちは可能か ―京都議定書延長、フクシマ中間報告、原発耐用年数40年法定化をめぐって―	26-29
	2012.4月号, vol.190	「脱原発」―闘い続けて1年	
「原発事故の責任者は刑務所に入れられるべき」 反骨の原子力学者・小出裕章さんインタビュー		6-10	
原発事故と向き合い格闘を続ける僧侶たち Hキョージュの環境ゼミ 第13回 フクシマ一年、そして水俣病を振り返る		14-17 28-31	
2012.5月号, vol.191	原発再稼働は許されない		
	原発という犠牲のシステムを廃止するために 犠牲にする者＝原子カムラは何も変わっていない	2-5	
	〈核災〉で人も町もメルトダウンした 詩人 若松丈太郎	6-8	
	広がり始めた高線量の「黒い物質」 [南相馬市] Hキョージュの環境ゼミ 第14回 原発規制行政の組織文化見直しに向けての処方箋	10-11 28-31	
2012.8月号, vol.194	高まる反原発のうねり		
	ついに大飯原発再稼働、あの小出氏が怒りの言	2-5	
	生命の母・海からの警告 深刻な放射能汚染の実態 「中間貯蔵施設を!」―立ち上がった大熊町の住民	6-7 8-10	
2012.9月号, vol.195	Hキョージュの環境ゼミ 第18回 道遠し、フクシマの真相解明	28-31	
2012.11月号, vol.197	時間が止まった原発被災地	5-7	
	超高線量の「黒い物質」は今も放置されている 事実を知らせ、子どもたちの健康被害を防ごう	8-10	
思想地図beta [コンテクチュアズ]	vol.2 (2011 autumn)	特集 震災以後	
		震災でほくたちはばらばらになってしまった	8-17
		震災と言葉 1 詩の磔 10	20-36
		震災と建築 復興計画β:雲の都市	38-50
		震災と社会 断ち切られた時間の先へ 「家長」として考える	74-93
		震災と科学 東大病院放射線治療部門中川恵一氏インタビュー	180-183
		震災と言葉 2 福島から考える言葉の力	186-193
		災害言論インデックス 震災でひとはなにを語ったか	194-209
g2: 講談社MOOK [講談社]	vol.8 (2011.September)	総力特集・津波と原発	4-165
		全被災地600kmの取材記録 北は岩手・宮古から南は福島・いわきまで	4-53
		スクープ 世界で一番危険な福島第一原発原子炉建屋をこの目で見た	54-73
		エンヘッド 海上自衛隊・被災地救援活動・秘録	74-105
		サイエンスレポート 「放射能除去装置」研究最前線報告	106-115
		原発事故の本質に迫る 東電の研究 虚構と欺瞞と失敗の本質	116-165
Journalism [朝日新聞社ジャーナリスト学校]	no.252(2011.5)	特集 原発事故と科学報道	4-53
		「想定外」ではなかった東日本大震災 災害報道に必要な歴史の検証	20-29
		メディア・レポート 新聞 原発事故報道で真価が問われる「被災者に寄り添う報道」	56-57
		メディア・レポート 放送 なぜ、マスメディアは「脱原発」と言えないのか?	58-59
	no.253(2011.6)	特集 東日本大震災と災害報道	4-49
		巨大震災とテレビ報道 つまづきながら進んだ「複合災害」特番	4-11
		復興報道に求められる上滑りせぬ地道な検証 「原発が減る時代」のメディアは制度変革の主体を育てる報道を メディア・レポート 放送 原発とテレビの危険な関係を直視しなければならない	18-25 42-49 52-57

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
Journalism	no.257(2011.10)	特集 大震災報道の6カ月	4-49
		新聞が報じた大震災と原発事故 記事・社説の分析から提言する	4-13
		NHKは原発とどう向き合ったか 事故の検証番組を作り続けてほしい	14-21
		現場と独自ニュースにこだわり JNN系列大震災取材の半年	22-29
		週刊誌の原発事故報道を検証する 科学コミュニケーションの視点から	38-49
	no.263(2012.4)	特集<検証>大震災報道の1年	4-51
		座談会 官尊民卑、自社検証、横並び意識… 新聞・テレビ「震災報道」の盲点を探る	4-15
		「プロメテウスの罫」とは何か 異端の集団が紡ぐ新聞の実験	16-23
		放射能汚染とどう向き合ったか NHKの特集番組を振り返る	24-33
		「災害の社会心理」から考える マスメディアの超えるべき課題	42-51
	no.268(2012.9)	特集 安全・危険をどう伝えればいいか	4-45
		対談 安全・安心をどう報じるか 科学的事実と社会心理の葛藤	4-15
		「放射能と食」をめぐる報道 判断のモノサシとなる情報を提供	16-21
		福島から見る低線量被曝報道 議論の前に姿勢を明らかにせよ	22-27
		放射線リスクをめぐる混乱と課題 一低線量、内部被曝、子ども、合意形成	28-35
リスク情報を伝えるために メディアが知っておくべきこと		36-45	
メディア・レポート 放送 日本のテレビ局はなぜ反原発の動きを報じ損ねたのか?		52-55	
序局:新自由主義と対決する総合雑誌 [オール企画]	創刊号(2011.11)	特集福島の怒りを共有する	
		被災地労働者・農民座談会 労働者の階級的団結が未来を開く	6-55
		原発事故をもたらし国家と資本を弾劾する	84-121
		子どもたちに未来を	84-95
		「高陽病院」と被爆者医療	94-98
		広島原爆からフクシマの今を思う	98-101
		原子力村ペンタゴンの罪	176-183
		最高裁はいかに原発推進政策を支えてきたか	184-194
		原発犯罪を裁くために	221-233
		3・11とメディア	234-243
	3.11福島原発事故 関連年表	266-269	
	第2号(2012.5)	特集放射能から命を守る闘い	
		原発事故にストライキで対決した!	6-47
		とにかく原発を止めること 原発労働の実態と原発労働者の闘い	48-67
		福島現場の声	68-111
		3・11を経た私自身へのレポート	68-79
		3・11以降の世界	80-83
		分断の元凶を曖昧にしない	84-89
		福島原発事故は学校現場に何をもたらしたか? 福島・双葉からの報告	90-111
		「低線量」放射線内部被曝による子どもの健康障害	112-122
		放射能被曝と除染について	123-127
		全国農民会議の旗揚げ 反原発・反TPP・三里塚勝利を掲げて	128-137
		資料 3.11福島県民大集会での県民の訴え(抜粋)	234-237
	第3号(2012.11)	特集原発・国鉄闘いは広がる	
		福島と官邸前思いはひとつ 百万人デモで原発なくそう 座談会	6-35
「黒い雨」と内部被曝		138-150	
見えない核の恐怖と戦う福島と共に		151-159	
翻弄され続ける双葉…「いま」		160-172	
福島の農民として被曝と闘う		173-179	
原発=核燃=核武装と対決する 被曝労働を許さず、全原発の廃炉へ		180-185 186-191	
第4号(2013.5)	特集フクシマの命の叫び		
	全記録3・11反原発福島行動13 再稼働阻止!未来のために立ち上がろう!	6-33	
	海外から450の賛同 3・11反原発福島行動13に連帯	34-61	
	ふくしま共同診療所3・10報告会 住民の命と心のよりどころに	62-89	
	福島県郡山市からの報告 原発事故被災地を覆う国際原子力マフィアの影	90-102	
	ヒロシマとフクシマを結ぶ医療	103-118	
	ビキと福島-放射能とは共存できない	126-133	
	追悼・福島県教組元委員長清野和彦さん 生前、最後に語られたこと	134-147	
震災学 [東北学院大学]	vol.1創刊号(2012)	第1章 震災が問うた基礎的な問題	8-78
		第2章 被災地の現実	79-137
		震災ブログから振り返る原発事故被災地の一年	108-121
		第3章 災害とボランティア	142-200
		原発被災地における<逗留者>の「活動の論理」 原発45km圏=相馬市におけるボランティアとネットワーク	156-185
		記録 東日本大震災十日間のドキュメント	313-317
	vol.2(2013)	フクシマの方へ	6-9
		第1章 <原発被災>をどう考えるか	10-76
		基調講演 原発と人間 シンポジウム「復活と創造東北の地域力」原発事故と東北再生	12-27
		パネル討論 原発事故の検証と今後 シンポジウム「復活と創造東北の地域力」原発事故と東北再生	28-40
		講演 福島原発事故に関して、若い人々に対するお詫びと期待	42-51
		反原発四〇年 六ヶ所村から福島第一原発へ	52-59
		第2章 フクシマからの声	77-131
対談 原発と文化 3・11以前/以後の風景	78-91		
<3・11>と福島民報	92-101		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
震災学	vol.2(2013)	汚染地図の中の私 ホットスポット取材の現場から	102-111
		記憶-南相馬・ある家族の二年	112-123
		大震災で失ったもの・甦ったもの	124-129
		福島第一原子力発電所事故後一年間の記録	130-131
		第3章 地震・津波被災地の2年	137-236
	vol.3(2013)	「見ようとしないうこと」を問う	6-9
		第1章 守りたい 東北の大地 シンポジウム	11-29
		第2章 福島へ インタビュー	30-57
		福島で考えたこと	32-42
		水俣・スリーマイル・福島	44-53
		この辺りの幽霊の問題 玄侑宗久	54-57
		第3章 仮設住宅とは何か	58-173
		[聞き書き]〈仮の住処〉を生きる 仮設から新しい我が家へ(福島県新地町)	170-173
		第4章 地域と震災	174-215
南相馬をゆく 旧警戒区域ボランティア体験記	208-215		
信州発産直泥つき マガジン たあくらたあ [たあくらたあ編集室 (オフィスエム)]	vol.24 AUTUMN 2011	総特集 3.11メルトダウン日本 脱・原発社会へ	1-64
		巻頭エッセイ いま私たちに問われているのは	表紙裏
		グラビア 放射能汚染地帯を歩く	2-6
		フクシマ・レポート	8-31
		孤立から復興へ 旧態ニッポンとの戦い 福島県南相馬市長 桜井勝延	8-11
		浪江町 空白の4日間	11
		汚染された村には戻れない 福島県飯館村酪農家 長谷川健一	12-15
		すべての責任は東京電力にあり 東日本大震災 天災と人災を一括りにしない 福島県飯館村議会議長 佐藤長平	16-19
		飯館村役場前	19
		わたしなりの歩みで	20-21
		今変わらなければ、いつ、変われるというのか	22-25
		福島県南相馬市 暮らす人々	26-27
		ある夫妻の話	27
		放射能汚染地帯を歩く	28
		ふるさとを離れて 福島から避難してきた2家族	29-31
		汚染された焼却灰をどうするか	42-43
		坂田静子さんからの伝言	46-47
		百姓のひとり言 「平和利用」の陰に潜むもの	52-53
		野生動物の放射能汚染リスク	54-55
	ウソつきは原発の始まり	64	
	vol.25 WINTER 2012	特集 脱原発フクシマは問い続ける	7-45
		巻頭エッセイ 自らの戒めとしての「3・11」	表紙裏
		インタビュー1 「絶望の町」の中の「希望の牧場」 吉沢正巳 エム牧場浪江農場長	8-12
		隠された20キロ圏内	12
		フクシマ 遺失した故郷	13-17
		インタビュー2 誰がために被災地支援はあるのか 桜井勝延 福島県南相馬市長	18-21
		フクシマの真実	21
		家族の肖像 仮設住宅のお婆さんと猫	22
		原発から50キロの町の苦悩 コミュニティを壊す「ホットスポット」	23-25
		親たちの座談会「風下の町」に生きる	26-31
		飯館村・村民の選択 長谷川健一さん、佐藤健太さんに聞く	32-35
		人の被曝だけが問題なのか、接地放射線量調査の重要性	36-38
		「災害がれき」、「除染対策廃棄物」の対応について	39
		いよいよ狩猟期、野生動物の放射能汚染は?	42-43
		連載 石油文明から太陽文明へ 22 小諸母子ホームステイプログラム	50-52
		3・11被災地との交流 自分たちの村に呼んじやえ	56-57
		連載 雑木林の小径で 9 自然のなかで暮らせる喜びを	58-59
	vol.26 Spring 2012	特集 原発ニッポンの迷走	7-48
		不安の中に暮らす、幼児をもつ母親の1年	8-10
		“孤立死と死刑”そして“忘却”	11
		南相馬市 六角支援隊による生き甲斐づくり 仮設住宅避難者のためのビニールハウス建設	12-17
		インタビュー1 田中京子南相馬市議会議員に聞く 戻りたいと願う人が戻れる南相馬市へ	18-20
		「助け合い」とは無縁の災害がれきの広域処理	21-24
		翻弄された飯館村に復興はあるのか	26-31
		TARKURATAR FUKUSHIMA REPORT 「戻らんにえど」	31
		インタビュー2 飯館村の明日 長谷川健一(酪農家)	32-33
		警戒区域内に封じられた現実	34-39
すべてを矮小化する「被曝量＝がん死」とする虚構		40-43	
市民が自ら、食品の放射能測定を行う		46-48	
連載 雑木林の小径で 10 暮らしの見直し		68-69	
連載 気になるコトバ 8 沈黙の春		72	
vol.27 Summer 2012	特集 原発再稼働を許すな！デモに行こう	2-17	
	浪江町から避難した今野庄治さんに聞く 脱原発デモに参加したわけ	10-11	
	丸森に生きる	18-21	
	飯館村のウソと真	22-25	
	フクシマ健康調査プロジェクトから考える	26-32	
グラビア ベトナム・オキナワ・フクシマ	33-39		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
信州発産直泥つき マガジン たあくらたあ	vol.27 Summer 2012	放射能で汚染された廃棄物の埋立施設の実像 連載 気になるコトバ 9 フクシマ後	42-45 72
	vol.28 Winter 2013	特集 終わりになき3.11 [フクシマ]からの証言	2-32
		原発避難 大熊町から白馬村へ	2-7
		避難移住した母達の願い	8-10
		福島の子も達に必要な保養プログラム	11
		大町市で1週間の保養キャンプ	12-13
		新しい朝を、祈る	14-17
		飯館村と小海町の凍み餅づくり交流	18-21
		文部科学省の嘘	22-24
		FUKUSHIMA PHOTO REPORT	24
		フクシマ健康調査プロジェクトを終えて	25-29
	南相馬市 仮設住宅でネイルサロン&床屋	30-32	
	連載 百姓のひとり言 8 あしたの猫	62-63	
vol.29 Spring 2013	特集2 あれから<3.11>2年、それぞれの選択	26-47	
	「原発ゼロ」見直しは、傷口に火箸	8-9	
	宿屋「深山の雪」、始めます	26-29	
	3・11が変えた私。「子ども信州ネット」の発足	30-32	
	再び「津波の夜に」	33-39	
	夢中でやってきたこと	42-45	
	私信:フクシマへの旅① うたに想いをこめて	46-47	
	汚染された廃棄物の焼却処理 ごみマフィアたちの便乗商法	48-51	
	放射性廃棄物焼却処理に翻弄される福島県民	52-53	
	飯館村を壊す除染	54-56	
アートハウスは交差点 ここに暮らす	66-67		
連載 気になるコトバ 11 検証	72		
vol.30 Summer 2013	特集 そろそろ目ざせ 脱原発社会	2-19	
	バイオガスからつながる葉の花プロジェクト	17-19	
	第三の「集めて、垂れ流す」原発事故 除染廃棄物の現況	26-27	
	2年ぶりの田植えは、試験田	29-32	
	生きる権利を奪われた飯館村のいま	33-39	
	白馬の森原発避難者の明日 放射能との付き合い方	42-45	
	福島に生きる① 遅れてきた汚染地帯	46-47	
	福島に生きる② 2児の母として	48-49	
	連載 気になるコトバ 12 堰堀	72	
SWITCH [スイッチ・パブリッシング]	VOL.29NO.5 (2011MAY.)	世界を変えた3日間、それぞれの記録	10-103
政経往来 [民評社]	2011.6月号, 第65号	声“設備疲労”福島原発 企業インサイド 原発事業 津波対策を強化、信頼回復なるか	41 58-59
仙台学 [別冊東北学編集 室]	Vol.13(2011)	特集 赤坂憲雄「震災論」	12-85
		巻頭対談 地震・津波・原発事故 言葉でなにができるか 佐野真一(ノンフィクション作家)×和合亮一(詩人)	2-11
		大震災のあとに東北がはじまりの地となる	18-23
		フクシマはわたしの故郷である	24-27
		鎮魂と再生のために	28-31
		福島、はじまりの場所へ	50-51
		福島を、自然エネルギー特区に	52-53
		福島から未来を創りたい	54-55
		人と自然との関係が問われている	58-59
		原発について、恥じらいとともに語りたい	62-65
山折哲雄×赤坂憲雄「反欲望の時代へ」はじめて	68-69		
震災と東北	70-73		
風評被害と戦うために	84-85		
川柳マガジン [新葉館出版]	2011.5月号, VOL.11 NO.5 通巻第120号	緊急特集 みんなで頑張ろう日本! 特集1 東日本大震災で被災された方への応援の一句 特集2 歴史の証人・川柳は語る 地震と川柳	16-99 16-34 84-99
	2011.6月号, VOL.11 NO.6 通巻第121号	緊急特集 みんなでがんばろう日本! 東日本大震災で被災された方への応援の一句	58-66
創 The Tsukuru [創出版]	2011年7月号, 第41巻第6号, 通巻456号	特集 原発報道とメディアの責任	26-81
		巻頭グラビア 綿井健陽さん撮影の写真を公開! 福島第一原発周辺はいま…	18-21
		50キロ圏内に入るなどという大手メディアも 福島原発事故と取材の自主規制	28-35
		原発内で何が起きているのかをどう伝えるのか 福島第一原発敷地内取材への提言	36-43
		原発報道をめぐる様々な取り組みの経緯とは 報道の現場で何を考えるべきか	44-49
		元朝日新聞科学部長が振り返る 原発報道は失敗の連続だった	50-55
		無責任な御用学者の発言を検証 福島原発「事件」報道の犯罪	56-61
		この期に及んでも海外メディア排除!? 記者クラブの体質と原発報道	62-67
		東電会見に通いつめたことで見えたものは… 東電会見「渾沌」の功と罪	68-75
		ツイッターやSNSはどう機能したか 原発報道とネットメディア	76-81
「こころの時代」解体新書 大震災後の日本人に起きた微妙な変化	88-91		
ドキュメント雨宮☆革命 脱原発デモと20ミリシーベルト撤回集会	136-139		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
創 The Tsukuru	2011年8月号, 第41巻第7号, 通巻457号	特集1 震災・原発とマスメディア	30-65
		巻頭グラビア 佐野真一さんの取材現場 福島第一原発周辺と地震津波被災地	22-23
		大江健三郎、澤地久枝等憲法第一世代の呼びかけ 1000万人による反原発運動を	32-35
		浜岡原発差止め訴訟弁護団長からの訴え この秋、全国で原発差止め訴訟を	36-40
		記者クラブメディアを批判する! 原発報道を検証しない大手メディア	42-47
		原発報道のメディア論的検証 原発推進派と反対派の硬直した議論	48-55
		震災取材で現地を訪れるとそこには… 見えすぎる恐怖と見えない恐怖	56-59
		死者と向き合い納棺の仕事も手伝った 遺体安置所で「死」について考えた	60-65
	特別対談 大本営発表と化した福島第一原発事故報道	66-71	
	2011年9.10月号, 第41巻第8号, 通巻458号	特集 震災・原発とマスメディア	26-69
		吉本芸人が見た記者クラブの実態 東電会見で目にしたへんなこと	28-35
		日本のエネルギー原子力政策の矛盾をえぐる! 自主上映進目『ミツバチの羽音〜』	48-54
タレント文化人 筆刀両断! 原発御用学者 「こころの時代」解体新書 急ぐべきは震災疲労への心のケア		70-71 76-79	
2011年11月号, 第41巻第9号, 通巻459号	特集 原発とメディア 第4弾!	26-59	
	巻頭グラビア 衝撃の福島第一原発写真	20-21	
	ジャーナリズムの危機に抗して 原発報道にみるメディアの病弊	26-39	
	黙っていたら「賛成」にされてしまう 脱原発のため私達にできること	40-47	
	原発敷地内の取材と撮影はなぜ可能になったのか 福島第一原発現場取材の舞台裏 原子力村は3・11以後も変わっていない メディアも加わった原子力村の構造	48-53 54-59	
ちいさい・おおき い・よわい・つよい [ジャパンマシニスト 社]	No.82(2011.6)	特集Ⅰ 放射能汚染と食べること 1	6-34
		ほんとうに「大丈夫」なの?	8-15
		まずは、甘い基準を変えさせることから	16-24□
		工夫して、支えあって、みんなで生きていく	25-30
		二度と繰り返さない。そのために	31-34
	みんなで保育の話 11 震災・原発事故を受けて 水や外遊びの対応、災害の備え 保育園アンケート	108-114	
	No.85(2011.12)	特集Ⅱ どう向き合う? どうおさめる? 震災・放射能不安	45-80
		震災後の私とこの子 読者の声	46-50
		僕が考える「震災と心のケア」	51-58
		しんどいときに役に立つもの	59-64
		不安を認める。そこから、始まる	65-69
		おさめること、おさめてはいけないこと	77-80
こども治療学24 鼻血が出る-1 放射能との関係は?		92-97	
No.86(2012.2)	わが家の基準値の定め方、食材の選び方…… 放射能汚染と食べること2	6-53	
	読者の声1 不安、不信、疑問、嘆き、怒り……	8-14	
	物理学者・榎田敦さんに聞く 個人の暮らしで大切なこと	15-20	
	原子力資料情報室スタッフ・渡辺美紀子さんに聞く 汚染は「食物連鎖」で広がる	21-27	
	ジャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表・天笠啓祐さんに聞く 食品選びの 五つのアドバイス	28-33	
	読者の声2 私なりに考えてこんなことをしています	34-35	
	「あいこーぷふくしま」理事長・佐藤孝之さん、理事・橋本拓子さん、阿部真由美さんに聞 く 原発まで六〇キロの試行錯誤	36-41	
	ノンフィクション作家・島村葉津さんに聞く いまこそ私たちに求められるもの	42-47	
	「物語」をとりもどすとき 一人ひとりの人権を守るということ	48-53	
	こども治療学25 鼻血が出る-2 原因と手当て	95-100	
地方自治職員研 修 [公職研]	2011.5月号	緊急特集 復興・再生を、ともに 葉上太郎の都政ウオッチング(哀れみではなく、お詫びと感謝を)	14-24 53
	2011.6月号	特集 連帯、再生へ〜負けない東北・負けない日本	13-38
	2012.4月号	特集 震災復興・この一年	13-37
		3・11から考える住民の権利・自治体の役割	14-16
原発と自治	17-19		
かーちゃんのカ、地域に希望を取り戻す〜かーちゃんのカ・プロジェクト	29-31		
DAYS JAPAN: 世界を視るフォト ジャーナリズム月 刊誌 [デイズジャパン]	2011年4月号	未曾有の巨大地震と原発震災	4-5
	2011年5月号	特集 暴走する原発	6-27
		福島原発で何が起きているのか	6-17
		福島原発とチェルノブイリ	18-27
	2011年6月号	特集 日本の原発 浜岡から脱原発へ	12-41
		トビックス 日本 私たちは福島の子どもたちを守るのか	10-11
		コラム「現場から」 母乳からも放射性物質を検出	44
		コラム「OUTLOOK」 福島第一原発の事故報道をめぐる週刊4誌の姿勢を点検!	45
	2011年7月号	特集 福島の行方	12-37
		原発の誕生	12-19
人海戦術の海になる 原発作業員ロングインタビュー		20-27	
被爆する大地と人々		28-37	
2011年8月号	特集 小出裕章の放射能の話	12-21	
	短期連載1 チェルノブイリの謎の雨	22-31	
	市民放射能測定所 福島でスタート	32	

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
DAYS JAPAN: 世界を視るフォト ジャーナリズム月 刊誌	2011年8月号	コラム「現場から」 30万人の子どもが「放射能管理区域」にいる！	40
	2011年9月号	福島県 相馬野馬追い祭り開催	9
		原発で初めて写真取材に成功	10-17
		子どもを放射能から守るために 国内に広がる運動紹介	18-25
		短期連載2 チェルノブイリの謎の雨	38-45
	2011年10月号	特集「放射能」どう測る？	12-21
		私の買った測定器	12-15
		私の放射能測定法 木村真三さんインタビュー	16-19
		広がる市民放射能測定所	20
		取扱い業者からのアドバイス	21
		コラム「現場から」「信じてそんをした」 福島 子どもたちの叫び	22-23
		短期連載3 チェルノブイリの謎の雨	32-39
	2011年11月号	特集 子どもたちを救え！ チェルノブイリで何が起きたか	12-21
		トピックス 日本 脱原発6万人の叫び	6-7
		三春町の決断 鈴木義孝町長インタビュー	24-25
		福島から世界に	26-27
		新連載 コラム おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？ 笑って前向いて考える話	28
		コラム「OUTLOOK」 懲りない文科省が主催する あきれた原子力情報サイト	29
		短期連載 最終回 チェルノブイリの謎の雨	32-39
	2011年12月号	トピックス 日本 隠蔽される原発事故	6-7
		祈るように押したシャッター… 世界が震えた3.11報道写真	22-33
		コラム おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第2回 どうするどうなる除染	34
	2012年1月号	特集 2012年 予測される未来	14-29
		トピックス 日本 津波ではなく地震 東電による事故原因の隠蔽に新たな証拠	12
		トピックス 日本 脱原発へ 女性たちの抗議	13
		福島第一原発の行方	16
		地震列島の原発	17
		メディアと記者クラブ	18
		コラム おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第3回 「市民目線」の記者誕生？	30
		見捨てられたベトナム	32-37
		新連載 チェルノブイリとフクシマ 第1回 子どもの障がいと放射能	44
		2012年2月号	アニマルワールド「よくぞ生きていた」 富岡駅前のダチョウ
	チェルノブイリとフクシマ 第2回 食品汚染に立ち向かう いわき放射能市民測定室たち		25
	あの時伝えられたこと 原発事故報道の検証資料 3月11日-12日		26-64
	おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第4回 日本と海外メディアの温度差		66
	2012年3月号	特集 詩と写真による3.11 鎮魂歌(レクイエム)から続く世界	12-33
		NHK番組に圧力をかけた原子カムラ	34-36
		おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第5回 放射線から逃げ出した民主主義	38
		チェルノブイリとフクシマ第3回 僕は自分の人生を生きてたい	49
	2012年4月号	若き原発作業員たち	32-35
		チェルノブイリとフクシマ第4回 日本中で広がる子どもたちの保養プロジェクト	37
		おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第6回 問題だらけ！内部被曝測定	38
		小出裕章「原発は犯罪である」	40-43
	2012年5月号	第8回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞特大号 大震災・原発事故そして世界の市民蜂起を写した写真家たち	8-78
		東日本大震災 渾沌と静寂	8-13
		東日本大震災 襲ってくる津波	14-19
		東日本大震災 まなざしの先に	32-35
東日本大震災 津波が消し去った街		40-43	
東日本大震災 慟哭の海		44-47	
東日本大震災 津波の跡に		48-51	
2012年6月号	隠される被ばくに立ち向かう	32-45	
	トピックス 収束ほど遠い福島原発の今	8-10	
	チェルノブイリとフクシマ第5回 一年が経過して 負けねど飯館！！	30	
	ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図5埋もれた初期被ばくを追い」はこうして作られた	32-38	
	わが子が甲状腺がんを宣告された日:チェルノブイリの母親から日本の母親へ	39-41	
	肥田舜太郎インタビュー 立ち上がる医師たち	42-43	
	心ある医師たちの警告	44-45	
	おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第7回 放射能とアスベスト 被害隠しの構造	54	
2012年7月号	おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第8回 おかしくないか？県民健康調査	54	
2012年8月号	チェルノブイリとフクシマ第7回 福島の母たちから沖縄・久米島へ	36	
	おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第9回 飯館村仮設住宅自治会費の謎	50	
2012年9月号	見捨てられた町からの告発 汚染の実態	18-21	
	チェルノブイリとフクシマ第8回 「市民の記録者」で行く「こちら特報部」の報道姿勢と	22	
	おしどりマコ・ケンの実際どうなの！？第10回 甘くない！？「ピーチプロジェクト」のくろみ	46	

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
DAYS JAPAN: 世界を視るフォト ジャーナリズム月 刊誌	2012年10月号	特集 告発された医師	18-35
		山下俊一教授 その発言記録(一部)資料	18-31
		人々を欺く医師の罪を問う	32-33
		子どもの命は預けられない	34-35
		チェルノブイリとフクシマ第9回 政府と東京電力は何を隠してきたのか	36
		おしどりマコ・ケンの実際どうなの!?第11回 猛暑にヒヤリ!?東電ビデオ会議の怪	54
	2012年11月号	特集 私たちは子どもを守る	22-35
		チェルノブイリとフクシマ第10回 「たね蒔きジャーナル」打ち切りの意味するもの	20
		おしどりマコ・ケンの実際どうなの!?第12回 「大丈夫、大丈夫」はホントにダイジョブ	46
	2012年12月号	特集 信頼できる甲状腺医はどこにいる?	12-18
		トピックス 福島 ベラルーシ、ベルラド研究所所長 福島を初視察	10-11
		おしどりマコ・ケンの実際どうなの!?第13回 繰り返すな!被害者切り捨て[水俣病と福島第一原発事故の類似点]	46
	2013年1月号	特集 原発事故報道 なぜメディアは、自己検証できないのか?	18-26
		DAYS JAPANからのアンケート	18-19
		回答からは見えぬ検証の詳細	20
		反省しない、できないメディアの体質	20-22
		NHKスペシャルの検証	21
		あの時、ニュースキャスターとして	23-24
		記者クラブメディアは政府・東電の情報管制に抗議を	25-26
		チェルノブイリとフクシマ第12回 「原発事故子ども・被災者支援法」茨城・千葉・埼玉の親たちの願い	27
		緊急レポート警戒区域 ジャーナリスト立ち入りへの過剰取締り	38-43
		警戒区域立ち入りへの警察介入	38-39
		国境なき記者団の生命	40-41
		ジャーナリストと住民への圧力	42
南相馬署および、情報を知る権利のある人々への公開の手紙		43	
おしどりマコ・ケンの実際どうなの!?第14回 福島でとぐろを巻く原発推進派	46		
2013年2月号	特集 チェルノブイリ原発事故後の実践例に学ぶ子どもを守る方法	24-31	
	日本版チェルノブイリ憲法9条を制定せよ!ふくしま集団疎開裁判	32-33	
	「沖縄・球美の里」、お母さんたちの写真館	34	
	チェルノブイリとフクシマ 第13回 双葉町長不信任によせて 町民のための未来の選択とは	35	
	おしどりマコ・ケンの実際どうなの!?第15回 福島は健康はどこ吹く風!? IAEA「協力」の実態	46	
	あの記事のその後をお伝えします DAYSフォローアップ [読者アンケート、警戒区域続報、2012年1月号「見捨てられたペットたち」、フタバから遠く離れて]	47	
2013年3月号	特集 IAEA(国際原子力機関) 福島への本格進出の理由	18-35	
	福島・子どもたちの今「このお花、摘んでもいい?」と聞かれて……	10-17	
	IAEAに「福島原発事故を過小評価せず、被災者の声に真に応えることを求める」要請書(一部抜粋)	25	
	OUTLOOK 原子力規制委員会に正しく仕事をさせるには	37	
おしどりマコ・ケンの実際どうなの 第16回 県立医大去る山下氏に敷かれたレッドカーペット	46		
Feel Love: Love Story Magazine [祥伝社]	vol.13 (2011Summer)	特集2011.3.11そして、今私が思うこと。	8-87
別冊Niche [批評社]	Vol.3 (2011)	特集3.11東日本大震災・福島原発事故、そして資本主義のゆくえ 「言葉は、ほんとうにあるのだろうか」熊谷一朗 まともな逃亡生活を支援することを支持する 東日本大震災と政治家たち 脱原発メモランダム 3・11東日本大震災と科学技術のアポリア 既存マスメディアは原発報道で敗北した!日本版「ジャスミン革命」の新たな頁が開いた 遺稿 原発がどんなものか知ってほしい(全) 平井憲夫	35-152 50-60 61-70 71-78 94-102 122-130 131-152
望星 [東海教育研究所]	2011.5月号, 第42巻 第5号 通巻504号	特集 大震災 いま何を思えばいいのか 緊急対談 いま見るべきものと考えべきこと この大震災をどう捉えるか 東日本大震災と私たち 緊急手記 神奈川の実家へ退避 “めぐまれた被災者”の十四日間	10-47 12-23 30-33
放送レポート [大月書店]	Number230 (2011-5)	緊急特集・東日本大震災	2-11
		被災地の放送局はその時	2-8
		視聴者の眼 マスメディアの存在意義を痛感したが……	9
		災害報道で気をつけること	10-11
		ラジオの現場から もっと被災者の声や被災地の現状を伝えて	12
		スポーツとマスコミ(121) 東日本大震災で問われるスポーツ組織の思想	14-15
	Number231 (2011-7)	東日本大震災を乗り越えるために	6-7
		被災地で思い知ったテレビの力	8-11
		ラジオの現場から ふだんからラジオを配る活動に取り組もう	29
		テレビ見てクリック!番組評価サイト「QUAE」調査から 6 大震災の影響 QUAE研究班	34-35
番組批評 震災・原発報道	43		
関西だより 科学者の警告を無視し続けるNHK・民放の異常	58		

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
放送レポート	Number232 (2011-9)	震災・原発事故とテレビ(前編)NHK・民放の初動70時間を検証する	2-10
		番組批評『双方向解説・そこが知りたい!』	11
		「原発震災」取材する	12-15
		原発事故で露呈した東電とメディアの「抱合体制」	16-19
		シンポジウム メディアは原子力をどう伝えたか	20-29
		ドキュメンタリー台本『原発爆発 安全神話はなぜ崩れたか』日本テレビ NNNドキュメント'11	38-52
		「9・11」10周年と「3・11」	54-57
	Number233 (2011-11)	震災・原発事故とテレビ(中編) NHK・民放の初動70時間を検証する	6-14
		ドキュメンタリー台本 毎日放送 映像08 なぜ警告を続けるのか ~京大原子炉実験所・“異端”の研究者たち~	42-56
		映画の中のマスコミ 原発工場を告発する「カレン・シルクウッド」	57
		ラジオの現場から ラジオジャーナリズムの原点とも呼びたい本	62
	Number234 (2012-1)	原発30キロ圏内で見てきたこと	2-5
		震災・原発事故とテレビ(後編) NHK・民放の初動70時間を検証する	6-17
		公開された福島第一原発	18-19
		制作者の素顔 第16回 福島放送 高橋良明さん	55
	Number235 (2012-3)	ラジオ記者、被災地を走る	2-11
		テレビは嘘ばかりや! “原発会見芸人”おしどりの怒り	16-17
		視聴者の眼 「僕は絶対死にたくありません」	23
		テレビ見てクリック! ~番組評価サイト「QUAE」調査から~ 10 震災の年の大みそか QUAE研究班	30-31
		ドキュメンタリー台本 毎日放送・映像'11 その日のあとで フクシマとチェルノブイリの今	38-51
		番組批評「クローズアップ現代」まっすぐ受け止めて行動することが命を救う 映画の中のマスコミ『311』『“私”を生きる』	52 61
	Number236 (2012-5)	「原発爆発」撮影の舞台ウラ	2-5
		福島県民「孤立」「対立」の365日 地元局は原発事故をどう伝えたか	6-13
		見た、読んだ、つぶやいた— 学生たちと震災・原発事故	14-17
		ラジオの現場から 日頃の放送で被災地のことを伝え続ける	25
		スポーツとマスコミ(127)偽りの東京五輪招致申請ファイル	30-31
		制作者の素顔 第18回 福島中央テレビ 岳野高弘さん 映画の中のマスコミ『原子力戦争』	59 65
	Number237 (2012-7)	番組批評『原発の安全とは何か 模索する世界と日本』原発の「安全性」を求めて煮え切らない	27
		ドキュメンタリー台本 日本テレビ系「NNNドキュメント12」行くも地獄 戻るも地獄 倉澤治雄が見た原発ゴミ	30-44
	Number238 (2012-9)	視聴者の眼 忘れていないというメッセージを送ろう	7
		仙台民放の四〇〇日 進まぬ原発事故救済と生活再建	8-16
	Number239 (2012-12)	『たね蒔きジャーナル』はなぜ打ち切られたのか	2-6
		ラジオの現場から 「広く薄い」ワイド番組より「狭く深い」報道番組を	7
ローカル局の存在意義とは 岩手民報四局の震災放送活動から		10-18	
徹底研究・原子力取材 ドキュメンタリー台本 富山テレビ放送 歩いています ~東北に生きる 富山の薬売り~		34-42 44-57	
Number240 (2013-1)	原発事故を見つめ続ける	2-10	
Number241 (2013-3)	あれから2年…被災地は今	2-6	
	検証・原発報道 北海道から(前編) ~原子カムラと安全神話を問うたUHB~	22-29	
Number242 (2013-5)	原発事故報道を語る 小出裕章×今西憲之	2-6	
	視聴者の眼 メディアはどれだけ変わっているだろう?	7	
	「オンカロ」取材して	8-9	
	検証・原発報道 北海道から(中編) 民放四局の六〇〇日	18-27	
	ラジオの現場から 「記憶の場所」を残して危険な現実を直視する 映画の中のマスコミ『フタバから遠く離れて』『穏やかな日常』	57 61	
保健室 【農山漁村文化協会】	2011年8月号, No. 155	特集 東日本大震災 今できること	2-65
		学校における震災対応の常識を問い直す —「天災」で終わらせない教訓を探る	16-30
		大震災後の各地から	31-36
		福島からの報告	37-42
		【渡辺 治氏に聞く】大震災後の社会をどう創るか —自然との共存をめざして	57-65
		こんなときどうする? 36 原発事故で放射性物質の汚染がつづくとき、身体への影響は大丈夫?	66-72
		ほっとHOTタイム 48 子どもを支えたい 福島語いの会BIN	76-79
		保健室の扉をたたく子どもたち 子どもたちに教えられた養護教諭のすがた	80-81
	2012年8月号, No. 161	特集 被災地から、いま伝えたいこと	2-50
		生きてゆく当事者としての子どもの声をニーズに換えるために	27-33
東日本大震災から一年を迎えて		34-40	
	こんなときどうする? 42 震災直後からカウンセラーが巡回しています。どう連携すればよいのでしょうか?	56-57	

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
マスコミ市民: ジャーナリストと市民を結ぶ情報誌 [マスコミ市民フォーラム]	No.508(2011.5)	特集 大震災・原発事故・メディア	2-45
		本誌編集委員座談会 ～震災報道におけるメディアの役割～	2-18
		「見えぬ不気味さ」はメディアの難題	19-21
		東京電力福島原発事故の原因を「大津波」にだけ求めるわけにはいかない 見過ごせない原発「耐震脆弱性」問題	22-27
		東日本大震災とコミュニティFM	32-35
		「この大災害に比べられるのは、ヒロシマとナガサキへの爆撃だけだ」ドイツのヘルムート・シュミット元首相が語る	36-45
		メディア時評(17)福島原発事故は突然「レベル7」に 日本のテレビにもアルジャジーラが必要	54-55
		連載放送を語る会 談話室(17)「農のこころ」を踏みにじるもの	72-73
	No.509(2011.6)	特集 大震災・原発事故・メディア II	2-38
		原発を拒否できなかったジャーナリスト	14-17
		政権交代ウォッチ(18)ブラックボックスだった原子力行政の徹底開示こそ	39-41
	No.510(2011.7)	特集 原発事故 政治とメディアの責任	2-37
		「発表報道」と「抑制」が目立った新聞・テレビの原発事故報道	2-6
		エネルギー政策の転換は、脱官依存の政治と不可分	11-17
		「大連立」は脱原発つぶし	18-25
		原発からのすみやかな撤退 国民的討論と合意を	26-31
		被災者の生活を第一に、復旧復興・原発事故対策を	32-37
		メディア時評 19 原発事故～報道の惨敗、被災者の悲惨	38-40
	No.511(2011.8)	特集 原発震災 報道の役割とは	2-57
		鼎談 震災と原発事故 メディアは何を伝えたか	2-20
		電力の地産地消 自治体の連携で、脱原発の世論喚起を	21-29
		ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」番組制作・放映までの軌跡	30-44
	No.512(2011.9)	特集 脱原発とメディア	2-57
		反原発訴訟は、福島第一原発苛酷事故をきっかけに反転攻勢へ	2-12
		原発に警鐘を鳴らし続けた京大熊取六人組	13-17
		脱原発に踏み切った毎日・東京両紙の勇断 あらゆる原子力からの決別を	18-24
		大震災と原発事故 メディアはどのように報じたか	25-37
「ふくしま」で見棄てられた人たち スロープがついていても使えない仮設住宅		38-42	
メディア時評(21)原発の排出基準値を超えている暫定基準値		58-59	
連載 放送を語る会 談話室(21)NHK「ETV特集」の衝撃 “大本営発表”のテレビ原発報道に抗して	72-73		
No.513(2011.10)	特集 II 原発報道を振り返る	30-50	
	野田新政権は原発とどう向き合うか	23-28	
	3・11原発報道はこれでいいのか!?	30-44	
	テレビはフクシマをどう伝えたか 2011年4月・各局ニュース番組を記録して	45-50	
No.514(2011.11)	東日本大震災と福島第一原発事故を機に日本の将来を考える	26-37	
	連載 放送を語る会 談話室 23 フクシマ報道 ローカルやラジオにも光る番組	62-63	
No.515(2011.12)	市民メディア訪問44 復興に向けた紙媒体の役割	56-60	
	メディア時評24 原発報道で気を吐くローカル放送局	64-65	
	連載 放送を語る会 談話室 24 二重苦の南相馬市は“いま”～被災地駆けあし印象記～	66-67	
No.516(2012.1)	報道界は反原発33年の南海日日新聞に学べ 京大助教・小出裕章さんが支援	30-38	
	市民のひろば 原発全廃で新たな展望を	60-61	
No.518(2012.3)	特集 3.11大震災・原発事故から1年	12-48	
	「3・11」からまる1年 郡山に住んで思う	21-23	
	原発は私たち双葉町民に何をもたらしたか すべての国民が脱原発の行動を	32-35	
	水俣 フクシマ 市民の責任	36-48	
メディア時評 27 福島の農家を追い詰める風評被害	72-73		
No.519(2012.4)	政府は全原発を止め、災害の復旧・復興に全力を集中すべきだ	62-69	
	メディア時評 28 民『官』事故調の真の目的は?	70-71	
No.520(2012.5)	特集「3・11」からいまを問いなおす	2-17	
	東電株主代表訴訟で、原因究明と責任追及を	2-6	
	郡山に住んで思う(2)	7-10	
	経済性にかすむ原発の危険性	11-14	
	東日本大震災から一年が過ぎて東北慰霊の旅・被災地を訪れて思うこと	15-17	
	連載 放送を語る会談話室 29 原発警戒区域をどう伝えるか	28-29	
メディア時評 29 ジャーナリストの志、科学者の使命感、市民の支持	30-32		
No.521(2012.6)	市民のひろば ストロンチウムの大量の流出の報道に	49-51	
	市民メディア訪問 46 福島原発事故と向き合う高校生たち	52-55	
No.522(2012.7)	国会事故調報道、三つの違和感	31-35	
	連載 放送を語る会 談話室 31 「嚴重注意」を受けるべきは誰か ～NHK「ETV特集」スタッフへの「注意処分」を考える～	36-37	
	拡散する精神／萎縮する表現(16) 原発犯罪の責任を問う(一)	38-39	
No.523(2012.8)	拡散する精神／萎縮する表現(17) 原発犯罪の責任を問う(二)	42-43	

雑誌名	巻号	内容細目	ページ
マスコミ市民	No.524(2012.9)	メディア時評 33 4つの事故調、報告書出揃う さっぱり見えてこない事故の全容と原因究明	36-37
マス・コミュニケーション研究	81 (2012.7)	特集 日本マス・コミュニケーション学会60周年記念シンポジウム シンポジウム震災・原発報道の検証-「3.11」と戦後日本社会	1-64
[日本マス・コミュニケーション学会]		パネルディスカッション 第1部「東日本大震災報道の検証」	17-40
		パネルディスカッション 第2部「原発報道の検証」	41-64
		放射能汚染にジャーナリストはどう対峙すべきか	183-184
早稲田文学 [早稲田文学会]	4 (2011.9)	特集1 震災に。	13-202

福島県関係書誌の紹介・2013

このリストは、当館で所蔵する2013年1月から12月までに刊行された福島県関係の資料のなかで、1つの主題や人物について20以上の文献を紹介しているものを集成した書誌です。(一部の主題は20以下でも収録しています)

主題編と人物編に区分し、それぞれ主題、人名の50音順、発行年月順に配列しました。なお、主題は検索の便宜を優先して付けましたので、厳密な体系化は考慮していません。

2013年以前発行資料で、「福島県関係書誌の紹介・2012」に未収録のものも併せて集録しました。

特定の主題、人物についての文献リストとして活用していただければ幸いです。

凡例

主題

⇔関連主題

- ・(掲載数) 項目
「論文名」 編著者 「資料名」 編著者
出版者 発行年月 項目掲載頁
*備考

主題編

会津の人物

- ・(13)参考文献
『新島八重と幕末会津を生きた女たち』
「歴史読本」編集部／編 中経出版
2013.5 p259,292
- ・(22)参考文献
『山本覚馬と幕末会津を生きた男たち』
「歴史読本」編集部／編 中経出版
2013.6 p37-38
- ・(29)参考文献
『会津名君の系譜』原口泉／著 ウェッジ
2013.8 p238-239

会津の歴史

- ・(365)関係参考文献一覧
『東蒲原郡史 通史編2』東蒲原郡史編
さん委員会／編刊 2013.3 p736-744
- ・(51)参考文献
『幕末日本のクーデター』星 亮一／著
批評社 2013.10 p265-267

- ・(16)参考・引用文献

『新しい会津古代史』鈴木啓／著 歴史
春秋出版 2013.12 p217

安積黎明高校

- ・(75)参考文献

『安積女子・安積黎明百年史』福島県立
安積黎明高等学校創立百周年実行委員
会／編 福島県立安積黎明高等学校創
立百周年実行委員会 2013.3
p893-895

医学・医療

⇔福島県歯科医師会

- ・(168)参考文献

『福島県歯科医師会百年史』福島県歯科
医師会／編刊 2013.3 p867-870

⇔福島県立医科大学

- ・(2018)福島県立医科大学業績 論文・著書・
研究発表等

『福島県立医科大学業績集 平成23年』
福島県立医科大学附属学術情報センタ
ー 2013.3 p1-427

*平成23年中に発表した業績のうち、刊
行数を採録

遺跡

- ・(19)参考文献

『会津若松市文化財調査報告書第136号
郡山遺跡8』会津若松市教育委員会
2013.3 p44

いわき市勿来

- ・(182)参考資料

『いわき市勿来地区地域史2』いわき市
勿来地区地域史編さん委員会／編館
p427-432

いわき短期大学

- ・(16)研究活動報告(平成24年1月1日～
12月31日)

『いわき短期大学研究紀要 46』いわき
短期大学 2013.3 p73-80

*研究活動報告のうち、刊行数を採録

いわきの植物

- ・(58)参考文献

『高久・豊間地区総合調査報告』[いわき
地域学会]高久・豊間地区総合調査報告編

集委員会／編 いわき地域学会
2013.3
p51-52,100,136-137,164-165,264

いわき明星大学

・(115)教職員名簿(2012年10月1日現在)
ならびに業績リスト

『いわき明星大学科学技術学部研究紀
要 26』いわき明星大学 2013.3
p45-60

*業績のなかの書籍、論文数を掲出

映画ウルトラマン

・(23)参考文献

『ウルトラマンが泣いている 円谷ブ
ロの失敗』円谷英明／著 講談社
2013.6 p220

映画ゴジラ

・(33)おもな参考資料・書籍・雑誌

『ゴジラ誕生物語』山口理／著 文研出
版 2013.4 p190-191

カラムシ

・(31)主な論文と参考文献

『会津に生きる幻の糸カラムシ』滝沢洋
之／著 歴史春秋出版 2013.2
p182-184

看護学

⇔福島県立医科大学

・(49)業績一覧(2012年1月-12月)

『福島県立医科大学看護学部紀要 15』
福島県立医科大学看護学部 2013.3
p35-45

菅野俊之

・(214)

『菅野俊之書誌 2012.4.1 現在』菅野俊
之／編 工房ポチ&アプリコット
2012.4

鉱物

・(98)引用・参考文献

『ペグマタイトの記憶 石川の希元素鉱物
と『二号研究』のかかわり』石川町歴史民俗
資料館／編 石川町教育委員会 2013.8
p267-269

郡山市

⇔守山藩

・(14)参考資料

『斜めから見た守山藩と戊辰戦争』吉川
貞司／著刊 2011.12

・(63)参考文献

『守山藩 (シリーズ藩物語)』遠藤教
之・遠藤由紀子／編 現代書館 2013.8
p205-206

ササラダニ

・(87)引用文献

『湿地に生息するササラダニ 魅力的
な世界への誘い』栗城源一／著 歴史春
秋出版 2013.3 p105-109

写真集

・(31)おもな参考文献

『二本松・本宮の昭和 写真アルバム』
いき出版 2013.5 p279

・(32)おもな参考文献

『福島市の昭和 写真アルバム』いき出
版 2013.6 p279

自由民権運動

・(56)文献目録・基本史料

『自由民権運動史への招待』安住邦夫／
著 吉田書店 2012.5 p205-208

書誌

・(15)

『書誌年鑑 2012』中西裕編 日外アソ
シエーツ 12月

*菅野俊之(p96) 草野心平(p118)久米正
雄(p120)原子力行政(p138)原子力災害
(p138),久米正雄(p120),東日本大震災
(p358-359),福島県(p371),福島県史
(p371),福島原子力発電所事故(p371),放
射線(p390)放射線障害(p390-391)三浦謹
之助(p406),南相馬市(p410),柳沢健
(p424)の書誌が掲載。「書誌解題」に原
子力(p463-464)

白河市

・(53)主要参考文献

『武門の縁 忍・桑名・白河、幕末への
軌跡』行田市・桑名市・白河市友好都市
締結 15周年記念合同企画展実行委員会
／編 白河市友好都市締結 15周年記念
合同企画展実行委員会 2013.8 p92

白河だるま

- ・(31)白河だるま・白河だるま市（市神祭）
関係記事資料集
『特別企画展 復興祈願！ 七転び八
起き・開運招福 白河だるまと全国のだ
るま』白河市歴史民俗資料館／編・発行
2013年1月 p46-49

震災復興

- ・(481)引用文献一覧
『社会経済システムの転換としての復
興計画』長島誠一／著 績文堂出版
2013.7 p373-390
- ・(42)本文のなかで言及した文献一覧
『共感の技法 福島県における足湯ボ
ランティアの会話分析』西阪仰／著 勁
草書房 2013.7 p204-506
- ・(30)注
『人間なき復興 原発避難と国民の「不
理解」をめぐる』山下 祐介／等著 明
石書店 2013.11 p309-325

相馬市

- ・(30)参考文献
『八幡地区に歴史を訪ねて 郷土学習
資料』佐藤隆／著 八幡小学校郷土史出
版委員会 2013.7 p128-129

相馬野馬追い

- ・(26)参考にした本
『野馬追のいまむかしガイドブック』南
相馬市博物館／編刊 2013.7 p70

高子十二境

- ・(205)注・参考文献
『詩に詠まれた景観と保全』小林敬一／
著 西田書店 2013.3
p34-36,48-50,97,104-105,107,111,113,
116,121,124-125,128-129,130-131,133,
135-136,138-139,141,144,146-147,151,
154,189-192

只見町

- ・(45)もっとくわしく学ぶために
『只見おもしろ学ガイドブック』只見町
教育委員会／編 只見町 2013.3 各
項目末

田村市

- ・(42)出典参考
『田村市史 7 田村市の神社仏閣
寺院仏堂編』田村市教育委員会／編刊
巻頭

日新館

- ・(29)参考文献
『ならぬことはならぬ』大堀哲／著 長
崎文献社 2013.6 p289

農業

- ・(46)参考文献
『食べものとエネルギーの自産自消
3.11 後の持続可能な生き方』長谷川浩／
著 コモンズ 2013.3 p163-165
- ・(77)引用文献・論文等
『農の再生と食の安全 原発事故と福
島の2年』小山良太／編著 新日本出版
社 2013.9 p243-253

東日本大震災

- ・(20)主な参考資料
『2011/3.11 いわき市・東日本大震災
の証言と記録』いわき市行政経営部広報
課・『いわき市・東日本大震災の証言と
記録』プロジェクトチーム／編 いわき
市 2013.3 p242
- ・(19)参考文献
『東日本大震災記録集』消防庁／編刊
2013.3 p10,79,194
- ・(62)注
『いわきから問う東日本大震災 フク
シマの復興と日本の将来』東日本国際大
学東洋思想研究所／編 昌平巒出版会
2013.6 p246-254
- ・(7442)
『3.11 の記録 震災篇 東日本大震災
資料総覧』「3.11 の記録」刊行委員会／
編 日外アソシエーツ 2013.7
*東日本大震災発生以降2013年3月まで
の2年間に発表・報じられた震災に関す
る図書約3,891点、新聞記事1,835件、
視聴覚・電子資料285点を収録。

避難生活

- ・(22)文献・資料リスト

『東日本大震災および原発事故によつて生じた避難生活の実態と課題』加藤眞義・高橋準／編 福島県男女共生センター 2013.6 p79-80

・(31)参考文献

『誰もが難民になりうる時代に』宗田勝也／著 現代企画室 2013.9 巻末 p4-6

・(87)文献

『「原発さまの町」からの脱却 大熊町から考えるコミュニティの未来』吉原直樹／著 岩波書店 2013.11 p211-216

福島県歯科医師会

・福島県歯科医師会は医療を見よ

福島県の歴史

・(53)参考文献

『あなたの知らない福島県の歴史』山本博文／監修 洋泉社 2013.7 p190

福島県立医科大学

・福島県立医科大学は医療と看護学を見よ

福島第一原子力発電所事故

・(23)参考文献・資料

『福島原発で何が起こったか 政府事故調技術解説』淵上正朗／著 日刊工業新聞社 2012.12 p199

・(20)参考文献

『マルチダウン 放射能放出はこうして起こった』田辺文也／著 岩波書店 2012.12 p154-156

・(64)参考文献

『カウントダウン・マルチダウン 下』船橋洋一／著 文藝春秋 2012.12 p471-475

・(27)参考資料

『原発事故をよく知るための本』青木高志／著 牧歌舎 2013.1 p246-247

・(25)参考文献

『マルチダウン ドキュメント福島第一原発事故』大鹿靖明／著 講談社 2013.2 p652-653

・(26)参考資料

『原発政策を考える3つの視点』齋藤純一・川岸令和・今井亮佑／著 早稲田大学出版部 2013.2 p95-98

・(104)本書で使用した文献

『文学者の「核・フクシマ論」吉本隆明・大江健三郎・村上春樹』黒古一夫／著 彩流社 2013.3 p228-235

・(31)参考図書

『放射能に抗う 福島の農業再生に懸ける男たち』奥野修司／著 講談社 2013.3 p346-348

・(29)原発事故参考文献

『福島原発の真実 このままでは永遠に収束しない。』村上誠一郎／著 東信堂 2013.3 p340-342

・(150)引用文献

『環境土壌学者がみる福島原発事故』浅見輝男／著 アグネ技術センター 2013.4 p281-289

・(35)参考文献

『フクシマとチェルノブイリにおける国家責任』繁田泰宏／著 東信堂 2013.4 p89-91

・(41)参考資料・参考文献

『福島原発事故「2015年問題」の真実』佐藤俊彦／著 現代書林 2013.5 p123-125

・(27)主な参考文献

『福島と原発 誘致から大震災への50年』福島民報社編集局／著 早稲田大学出版部 2013.6 巻末[p453]

・(89)引用・参考文献

『水素よ、炉心露出の詩』藤井貞和／著 大月書店 2013.7 p166-171

・(48)引用文献

『地震列島日本の原発 柏崎刈羽と福島事故の教訓』立石雅昭／著 東洋書店 2013.7 p37,63-65,99-100,126-127,141,157

・(6185)

『3.11の記録 東日本大震災資料総覧 原発事故篇』「3.11の記録」刊行委員会／編 日外アソシエーツ 2013.7

*東日本大震災発生以降2013年3月までの2年間に発表、報じられた福島第一原発事故関連の図書のべ2,604冊、雑誌記事3,581点、新聞記事1,260点、視聴覚・電子資料285を収録。

・(180)参考文献

『原子力損害賠償制度の研究』遠藤典子／著 岩波書店 2013.9 p335-346

・(23)参考資料

『失われた町からの声 福島／残る人・去った人』名越智恵子／著刊 2013.12 p61

福島大学

・(35)新聞で見る福島大学地域連携活動の記事

『福島大学地域創造支援センター年報2012』福島大学地域創造支援センター 2013.2 p89-122

・(30)学会記事

『行政社会論集 25-4』福島大学行政社会学会 2013.3 p107-113

文献目録

・(3)

『美術家文献目録 日本篇』日外アソシエーツ／編刊 2013.6

*亜欧堂田善(p5)関根正二(p259)高村智恵子(p281)

放射能汚染

・(27)参考文献

『放射能拡散予測システム SPEEDI なぜ活かされなかったか』佐藤康雄／著 東洋書店 2013.3 p152-153

・(20)参考文献

『子どものいのちを守りたい「子ども保養プロジェクト」の願い』中島恭子／著 いのちのことば社 2013.3 p94-95

・(35)参考資料・文献

『放射能除染と廃棄物処理』木暮敬二／著 技報堂出版 2013.10 p189-191

戊辰戦争

・(83)参考文献

『新・雨月 下 戊辰戦役朧夜話』船戸与一／著 徳間書店 2013.1

p358-363

・(58)主な参考文献

『会津藩VS長州藩 なぜ“怨念”が消えないのか』星亮一／著 ベストセラーズ 2013.3 p252-255

・(19)参考文献

『会津戊辰戦争の真実 陰謀の維新史』ダイアプレス 2013.6 巻末[p106]

南相馬市小高

・(36)引用・参考文献一覧

『資料の調査と記録 おだかの歴史 特別編5』南相馬市教育委員会／編 南相馬市／刊 2013.3 p110

守山藩

・守山藩は、郡山市を見よ

米沢街道

・(28)参考にした図書

『米沢街道 戦乱にそなえた庭坂宿を往く』阿部美作／講師 福島市吾妻学習センター図書室 2000.11 p5

・(66)参考図書

『米沢街道を往く 奥州街道・八丁目宿へ』阿部美作／講師 福島市吾妻学習センター図書室 2004.11 p7

老媪茶話

・(44)主な参考文献・引用

『福島県立博物館紀要 第27号 2013』「『老媪茶話』にみる近世会津の民俗風景」佐々木長生／著 福島県立博物館 2013.3 p84-85

人物編

井深梶之助

・(39)参考・引用文献

『井深梶之助伝 明治学院を興した会津の少年武士』星亮一／著 平凡社 2013.5 p284-287

井深八重

- ・(68)参考文献
『井深八重 会津が生んだ聖母』星 倭
文子／著 歴史春秋出版 2013.9
p202-205

瓜生岩子

- ・(119)参考文献
『炎は消えず 瓜生岩子物語』廣木明美
／著 文芸社 2013.7 p201-207

小野恵美子

- ・(22)参考文献・資料
『踊るころ 小野恵美子の歳月』大越
章子／著 紫草館 2013.6 p335-336

蒲生氏郷

- ・(114)参考文献
『蒲生氏郷』藤田達生／著 ミネルヴァ
書房 2012.12 p221-227

川崎尚之助

- ・(80)参考文献
『川崎尚之助と八重 一途に生きた男
の生涯』あさくらゆう／著 知道出版
2012.12 p248-251

児玉誉士夫

- ・(94)主な引用・参考文献
『児玉誉士夫 巨魁の昭和史』有馬哲夫
／著 文藝春秋社 2013.2 p372-377

天海

- ・(18)参考文献
『南光坊天海の研究』宇高良哲／著 青
史出版 2012.10 p409-410

中條政恒

- ・(42)主な参考文献
『中條政恒伝 富強の基はこの地に在
り』立岩寧／著 青史出版 2013.9
p287-289

新島八重

- ・(34)参考文献抄
『同志社の母 新島八重』同志社女子大
学／編刊 2012.10 p112-113
- ・(24)参考資料
『明治女が教えてくれたプライドのあ
る生き方』石川真理子／著 講談社
2012.11 p251-253
- ・(47)参考文献

『幕末銃姫伝 京の風会津の花』藤本ひ
とみ／著 中央公論新社 2012.11
p433-435

- ・(29)参考文献
『めぐり逢い 新島八重回想記』鳥越碧
／著 講談社 2012.11 p376-377
- ・(34)参考文献抄
『新島八重の生涯 八重を学ぼう八重
に学ぼう[増補改訂]』同志社女子大学／
編刊 2012.12 p25-26
- ・(26)主要参考文献
『京に咲く同志の桜 新島八重・新島
襄・山本覚馬の物語』桜井裕子／著 海
竜社 2012.12 p233
- ・(33)参考文献
『日本人の魂と新島八重』桜井よしこ／
著 小学館 2012.12 p236-237
- ・(46)参考及び引用文献
『新島八重 媚びず動ぜズ凛として』林
洋海／著 上毛新聞社 2012.12
p275-277
- ・(28)主な参考文献
『新島八重 波瀾万丈-幕末のジャン
ヌ・ダルク』中江克己／著 学研パブリ
ッシング 2012.12 p291-292
- ・(45)引用・参考文献一覧
『八重のことば 新島八重とその同時
代人が語り伝えた生き方』坂本優二／著
新教出版社 2012.12 p262-264
- ・(45)参考文献
『清らにたかく ハンサム・ガール2』
松尾しより／著 双葉社 2013.1 巻
末
- ・(24)参考文献
『すべてわかる！新島八重とその時代』
武山憲明／著 日本文芸社 2013.1
p246-247
- ・(26)参考資料
『新島八重の茶事記 筒井紘一／著
小学館 2013.1 p126
- ・(100)主要参考文献
『八重の桜 2013NHK大河ドラマ
特別展』NHK／編 2013.3 p191

- ・(82)参考文献
『武と愛の人 新島八重の生涯』新堀邦
司／著 里文出版 2013.3 p294-299
- ・(60)参考文献
『カメラが撮らえた新島八重・山本覚
馬・新島襄の幕末・明治』吉海直人／編
著 中経出版 2013.4 p142
- ・(31)主な参考引用文献
『サムライウーマン新島八重』守部喜雅
／著 いのちのことば社 2013.4
p142-143

野口富蔵

- ・(36)参考資料・文献
『野口富蔵伝 幕末英国外交官アーネ
スト・サトウの秘書』國米重行／著 歴
史春秋出版 2013.6 p179-181

伴百悦

- ・(16)主要参考文献
『伴百悦 会津武士道に生きた』中島欣
也／著 歴史春秋出版 2013.6 p167

平野小剣

- ・(256)参考文献
『差別と反逆 平野小剣の生涯』朝治武
／著 筑摩書房 2013.1 p325-334

三島通庸

- ・(121)主な参考文献
『山形県初代県令三島通庸とその周辺』
小形利彦／著 大風出版 2013.4
p275-286

山川健次郎

- ・(48)主な参考文献
『評伝 山川健次郎 士君子の肖像』山
川健次郎顕彰会／[編] 山川健次郎顕
彰会 2013.11 p204-205

山川充夫

- ・(128)略歴・業績一覧
「山川充夫教授 最終講義・略歴と業
績」山川充夫／[著] 『商学論集 81-4』
福島大学経済学会 2013.3 p253-263

《地域資料チーム 佐藤加与子》

=====
福島県郷土資料情報 No. 54

発行日：2014年3月28日

編集・発行：福島県立図書館
=====